

第4章 家族・親族状況からみた移行

1. はじめに

本章は、移行の困難に直面している若者の家庭・親族状況がどのようなものかを明らかにする。ここで家庭・親族を扱う課題は2つある。第一の課題は、主に学校教育段階において、家庭は子どもの職業への移行に対して、どのような役割を果たしているか、それとも果たしていないのか実態をみることである。学校への適応、学業の達成において、家庭環境の影響は大きい。学校で学ぶことに強い関心を持ち、経済的にもそれが可能な家庭環境で育つかどうかによって大きな差が生じ、中学あるいは高校が終了する頃には、大きな開きが生じている。第2章2でも記述されているように、近年まで日本では「メリトクラシーの大衆化状況」（荻谷 1995）が特徴であった。しかし近年では大都市進路多様校における「脱学校化」傾向が指摘されている。この傾向は、親の子どもに対する養育・教育観と密接に関係している。それは学校で子どもが成果をあげることの有効性を親が信じ、動機付け、生活指導、経済的援助をするかどうかにも現れる。このことと、学校における移行支援（企業の新規一括採用制度に対応）とは見事に一体化していたのである。新規一括採用制度が有効に働かなかった層（無業者・フリーター）の増加は、家庭のメリトクラシーの変容と関係しているのだろうか。このような面に着目していくことが第一の課題である。

第二の課題は、移行の困難に直面している若者に対して、家庭はどのような役割を果たしているのかという点である。全般的に、成人期への移行が長期化していることが近年の特徴であるが、新規一括採用の流れに乗れなかった者または乗らなかった者は、移行期がよりいっそう長期化し、かつジグザグな経路となっている。完全な自立に到達するまでの半分依存・半分自立の不安定な時期を支えるものとして、家庭（とくに親）の存在は以前にも増して大きな意味合いを持っていることが国内外の先行研究で指摘されている。そこには日本に特有の事情もある。新卒採用を前提にしてきた日本では、そこからこぼれた部分への就労支援策はきわめて未発達で、個人とその家族（親）の個人責任に委ねられてきたのである。そこで本章では、実際に“個人責任”がどのように果たされているのか、それとも果たされていないのかをみていく。長期化する教育・訓練のための費用負担、安定した収入に至らない段階での経済的援助、教育・職業選択その他、移行期を成功裏に乗り切るために、親にどの程度の情報提供・助言、資金援助の力量があるかどうかによって、移行期の様相は異なったものになるであろう。不安定な状態を物心ともに支えてくれる親や身内があるかどうかは非常に大きな条件であり、その点で若者の格差は大きいだろう。

本章では、移行期の困難に直面している者が、過去から現在までどのような家族環境と親子関係をもっているのか、そのことがフリーターという状況とどのような関係をもっているのかをみていく。2で、家族史と家族構成をおさえる。3で、親の職業とライフスタイルをみる。4で、過去から現在までの家計状況をおさえ、親子の経済関係がどのようなものであ

るのかをおさえる。5で、親のしつけ・養育態度・子どもへの期待がどのようなものであったのかをみる。6で、親子関係のありようを、会話・行動・情緒関係からみる。7で、将来のくらしに対して、また、結婚や家族形成に対して、どのような期待と展望をもっているのかをまとめる。

2. 家族史と現在の家族構成

成人期への移行の時期は、就職、結婚その他の理由で親の家から他出していく時期である。その際、親をはじめとする家庭の状況いかに、移行のありさまに影響を及ぼしている。無業あるいは非典型雇用の状態にある対象者は、親と同居する者が圧倒的に多い。彼ら・彼女らは、どのような家族史をたどり、誰とくらしているのだろうか。

2.1 親の離婚・再婚・死別

対象者のなかには、親の離婚・再婚・死別を経験している者が多い。離婚（51人中8人）、再婚（3人）、死別（7人）で、その結果、母子家庭が9人、父子家庭が4人と、高い割合を占めている。また、義理の親子関係（2人）、未婚の母（1人）もいる。離婚や死別は、早期に経験している者が多い。

地域的にみると、関西は、親の離婚・再婚・死別のために欠損家族や複雑な構成の家族が多い。首都圏も、欠損家族を含んでいるが、そうでない家族の方が割合としては多い。東北は、欠損家族がなく、むしろ祖父母を含む三世代家族が多い。

（1am）は、保育所の頃両親が離婚して祖母に育てられるが、小学4年の時祖母が亡くなり、間もなく父親が再婚したごたごたで学校で勉強する意欲を失っていった。

（両親が離婚したのは）僕が保育所するときですから。何歳やろうな、あれ。何歳やったかな。年長さんかな。

<1am・24歳・中卒・男性>

ほんまのおとんは別れて、義理のおとんが死んで、で、今まで来てん。（近所に親戚は多い？）親戚はおるけど、親戚になったほうが別れたりして親戚じゃなくなったり。この地域の親戚とはあんまりつき合いしない。一緒の団地におじいちゃんの妹がおるからその人ぐらいで、ほかは別に大した親戚づき合いはしない。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

（血のつながった兄弟が3人、お母さんが違う兄弟が3人ですか？）はい。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

（お父さんと別居？）お父さんだけ。（お母さんと一緒に。引っ越したのはそれが理由？）その理由ですね。（お父さんはまだ〇〇市に？）居てるかどうかも、分からないくらいに。（お母さんとお父さんとの連絡は？）全然、連絡とってないんで。（じゃあ、お母さんと2人で？）と、あと兄貴がおるんで。

<37cm・19歳・高卒・男性>

(再婚は最近?) 僕が小学校の5年生か6年生ぐらいのとき。(最初のお父さんとは?) 離婚ですね。

<40cm・19歳・高卒・男性>

(お父さんは、お亡くなりには?) いや…離婚ですかね。ちっちゃいとき。幼稚園くらいかな?(記憶にはある?) お父さんがいたこと? はい。

<46cf・19歳・高卒・女性>

2.2 親役割の代替と多様な家族形態

複雑な家族史をたどった結果、多様な家族形態がみられる。当然、実の両親に代わって親役割を果たす者が必要となる。その際、祖母はしばしば親に代わる重要な役割を果たしている。女性の場合は、親に代わって家事の手伝いを小さい頃からやっている者もみられる。(17cm)のように家庭の複雑な事情から、祖母の家と親の家を行き来している者もいる。

(家族はお父さんとおばあちゃんですか?) そうですね。僕と、気がついたらおばあちゃんが家に来ていたんですよ。(兄弟は?) そのときはいてなかったんですけど、(再婚して、下の)子が3人いますね、弟が。

<1am・24歳・中卒・男性>

(再婚するまでおばあちゃんの家でずっと育てられていたと?) そうです。(幾つぐらいまで?) それは小学校1~2年のときまで。(お母さん、お父さんと?) 1回、住み出したんですけど、合わなくて戻りました。(血のつながった兄弟は?) 上にいますけど、全然別に暮らしているんで。いないです。僕の産んだお母さんのところに。(1人だけお父さんのもと、おばあちゃんのところに残った?) そういう感じ。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

〇〇市ではお母さんも一緒に住んでいて、離婚してお父さんと、お兄ちゃんと、弟と。(家のことはだれがしてはったの?) 家のことは、一応私が。小学校の小さいときにアパートから9号館に引っ越して、そこは狭くって、小学校の6年ぐらいのときに今住んでいる広い部屋に引っ越して、そこから家でご飯をつくるようになった。それまではおばあちゃんちで、手伝いといっても食器を洗ったりぐらいで、引っ越してから、小学校6年から中1のときぐらいからご飯をつくったり…。

<18cf・20歳・高卒・女性>

10代で子どもを出産した(4bf)は、子どもの養育に対する自覚がなく、祖母に親代わりをしてもらっている。(4bf)は、自分自身が母子家庭で育ており、祖母・父・本人・子どもの同居の時期もあった。(4bf)は小学校時代から勉強がまったく苦手であった。両親はパチンコ狂いで、仕事が終わるとパチンコ店に直行して家には帰ってこないありさまだった。親に料理を作ってもらったことがほとんどないという。彼女は、中学時代から遅刻・欠席が多く、高校1年の一学期で中退している。

私、親と別居してるんですよ。(独立してるんですか?) 私子供いてるんで。(今一緒に住んではるの?) はい、子供とふたりで。(実家にいたわけですね? その時はね?) うん、そうそう。産んでからは。ほんでまあ父親おらんから母子家庭とかもらうのに、親と別居せなもらわれへんて言われて。住所が違わないと母子家庭のお金もらわ

れへんってことになって、で、今住んでるところに移ったんやけど。1年半くらいはもうその子から見たらひいばあちゃんと一緒に住んで。おばあちゃん、お父さんの親と一緒に3人で住んで。泊りに来てもらってもう住んでるって状態になって。1年半くらい続いたのかなあ。んでようやく子どもがちょっと大きくなって、ってゆーか2歳ぐらいになってから、もうおばあちゃんにはべったりなんやけど、うちも落ち着いたから、子ども見るようになったっていうか多少見るようになった。(それまではおばあちゃんが)うちの家来て住んでる状態で、ずっとご飯作って子どものミルク作ってくれてたり。母乳じゃなかったから。いつも夜おきてミルク作ってくれて。(中略)おばあちゃんも、なんで歳いってからこんなしんどい目みなあかんてずーっと言ってた。今はもうそういうの聞けへんけど。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

いっぽう、東北のケースは、三世代家族が多く、欠損家族はない。(26cf)のような家族が多い。

おばあちゃん、元気ですね。(家事も)やります。畑も持ってるんで、畑もおばあちゃん1人でやっていますね。(今、お母さんと三姉妹で住んでらっしゃるんだ。)

<26cf・20歳・高卒・女性>

2.3 家族周期上の困難

対象者は、家族周期のステージからすると、祖父母の死、きょうだいの結婚あるいは仕事による他出などを経験する時期にある。このステージの課題をスムーズに通過することは移行期の重要な条件であるが、それがうまく運ばず、重大な困難に遭遇する者もいる。(50em)は、長期にわたる祖父母の介護後、両親があいついで病気で倒れ、母親は死亡している。

(50em)の例は、後でみるように、借金、経済的苦難、不和なども重なり、不幸にも本人は移行の時期にそれらの重圧を一身に負わざるをえない状況に立たされ、就職どころではなかったのである。

そうですね。姉は結婚して、東京のほうでだんなと暮らしているんで、今は私と父と母と祖母の4人暮らしです。

<2am・22歳・中卒・男性>

(で、ご家族構成としては、そのときは、お父さんとお母さんと、お姉さんが2人いらっしゃって?)それは、家庭教師の先生。(そうか、あなたはお姉さん1人だ?)はい。(お姉さん1人で、何歳年上なの?)4つ。(であと、おじいちゃんが一緒に暮らしてたの?)はい。(おばあちゃん…。おじいちゃん、おばあちゃんと一緒にだったのね?)ええ。(で、おばあちゃんが先に亡くなったんだっけ?)はい。小学校でいじめられているときに、亡くなりました。(そのころに、おばあちゃんが亡くなったんだ。で、おじいちゃんが亡くなったのは、もっとずっと後で、看病疲れでお母さんが亡くなったんだから…。)3年前です。(じゃあ、ほんとに立て続けだね。おじいさんが亡くなって…。)母親が亡くなって、で、姉もいなくなって。(お姉さんは、これは結婚して…。)結婚していなくなった、死んだんじゃない。今から言えば、もう5年ぐらい頑張っ、やっとならしたっていう感じすごいですね。(そんなに頑張ってたんだ。)はい。(じゃあ、昼と夜と両方、2つ仕事を持ってみたいな?)2つこなしてた。すごいですね。(頑張ってたんだ、お父さんは?)これは、世のおやじたちに聞かせてやりたいぐらいだね、ほん

とうに。(じゃあ、昔持ってたお父さんへのわだかまりが随分変わったんだね?) 見方は変わったね。(やっぱり大人になったせいもあるのかな?) 何か子供のことにはちょっと無関心だったから、気にもとめてなかったんだけど、高校のときに、離婚するかしないかという話が出てきて、姉もおれも、離婚していいよって母親に言ったんだけど、おれの進路が、おれの就職がって言って、離婚しなかった。(じゃあ、お母さん、我慢したの?) 何で自分のためにやらないんだって。(お母さんとしては我慢して、離婚やめたの?) したいけど、向こうが嫌だということもあったし。そんなにしたくないんだったら、おれたちが無理やりしてやるみたいな感じで。もう父親が帰ってきたら、「出てけ、出てけ」って。(別居してたの? 帰ってきたって、別に別居してたわけではないの?) もう中学のころからずっと別居してたっていうか、別居だよ、ほんとに。帰ってきたくなかったって言ってたから。

<50em・25歳・専門卒・男性>

2.4 小括

家族史と現在の家族構成は、親の職歴や経済状態と密接に関係している。この後でみていくように、離婚・再婚は、不安定な職業や借金問題と結合していることが少なくない。また、家族周期上で遭遇する看病や介護などの困難な課題が、学業のつまずきや就職活動への障害になることがある。

3. 親の職業とライフスタイル

親の職業は、子どもの職業選択に何らかの影響を及ぼすと思われる。それは2つの面をもつであろう。

第1に、親は子どもにとって職業モデルである。親の職業上のライフスタイルと職業意識が子どもに反映する。親が職業のうえでしっかりした基盤をもち、子どもに情報を与えたり助言できる場合は、フリーターをしながらも見通しを失わず将来設計をたてることが可能となっている。反対に親にその力がないと、子どもは目先の選択をし、経済的な余裕がないこともあって、刹那的な選択をしがちである。また、親が非典型雇用者であれば、フリーターへの親和性があるだろう。もっとも親のようにはなりたくない、という意識も働くであろうが、どこに分かれ目があるのだろうか。第2に、親の職業は地域経済を反映するが、それが同時に子どもにも反映する。地域経済の衰退は親子双方に影響を及ぼし、とくに弱い社会階層の親子を直撃すると指摘されている(ジョーンズ・ウォーレス 1996)。

3.1 親の職業は雑多な不安定就労

低学歴の親の職業は、零細自営業、作業員、ダンプやトラック運転手、飲食店、その他の不安定就業で、離転職数も多い。自営業を廃業して、アルバイトをしている者もいる。両親が揃っている場合でも、母親が専業主婦でいる者は少数である。親の仕事について明確な知識をもっていないことも特徴といつてよかろう。このような傾向は、関西の事例に特徴的にみられる。

(お母さんの仕事は?) 今はたこ焼きじゃないです。今は休業してるんですよ。もうちょっとしたら始めるんですけど。ちょっと休んどって。今は違う仕事ですね。だから、晩御飯はあまり一緒に食べれるときがない。お母さん仕事行ってるから、私暇やから家

の掃除とか、家事はほとんどやっていますね、私が。お父さんの仕事はトラックだったんです、初め。お父さんは病気持ちやったんで、ちょっと仕事を休んどって、それまでは店で養ったんです。いろいろ支給がもらえるじゃないですか。それで養ったたりして…。お父さんはそこからちょっと体がましになってきたから、水道局というか、いろいろどこか回って工事…。ようわからへんけど、柱を立てていくみたいな仕事…。何て言ったらええんやろ。(建築の現場?) そうですね。

<12df・20歳・専門中退・女性>

(17cm) は、親の離婚・再婚を経験している。親の職業に関してはほとんど知らない状態である。そのことの影響もあってか、定時制高校を卒業する際、就職に関してはまったく何もしていない。在学中のアルバイトを続けていくことしか考えていない。(18cf) も在学中就職に関して何もやっていない。「バイトでいいと思っていたし、何年も働かんわ、2年くらいしたら結婚していると思って…。卒業して2年ぐらいは適当にバイトして、2年ぐらいたったら結婚して専業主婦になってと思った」といっている。(6bf) は、父親の借金で家計が苦しいため、子どもが働くことを期待している。定時制高校に行きながら種々のアルバイトをしていたが、夜が辛くて退学し、その後もさまざまなアルバイトを続けていて、正社員になる気はまったくない。お金さえもらえればアルバイトでかまわないと思っている。

(お父さんとお母さんはお仕事は?) はい、多分しています。(お父さんは?) 何をしているかは全然知らない。(お父さんもお母さんは家にあまりいない?) はい。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

(お父さんの仕事は?) バイトみたいな感じの。もともと自営業をやっていたんですけど、それがあかんようになって。建築屋みたいな。(雇われて?) そうです。(職種は?) 建築になるんでしょうか。僕も聞いたことがないんで。

<51em・22歳・専門卒・男性>

(お父さんの) 仕事はダンプカーの運転をしている。(そのダンプカーは?) はい、自分の。(独立してやっているの?) どうなんだろう。会社に入っているのかな。あまりはっきりはわからない。

<18cf・20歳・高卒・女性>

(お父さんお仕事は?) 仕事? お父さんは掃除。ホテル内の掃除。〇〇市。(ホテルに雇われている?) ホテルに雇われているという感じなのかな。(ずっとそのお仕事ですか?) まだ1年はたってない。その前は運送やった。(運送会社?) 個人の。軽トラ。5年くらいやった。その前。ドーナツ売ってた。…テキヤみたいな。お祭りじゃなくて、いつも、スーパーとかを回って。いろんなところ行って。作って。(ドーナツの仕事は長かった?) そんな長くなかった。(小さいときお父さん何をしていた?) わからへん。工場に行っていた。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

おとんは中卒なんです。中学卒業して車の整備をやってて、18ぐらいで自衛隊にかわって、ずっと自衛隊です。(その後はずっと?) 自衛隊だと思いますよ。僕も入っていないのでわからないんですけど。自衛隊は引越しまいって言ってました。僕も何回か引越してますね。

<41cm・22歳・高卒・男性>

3.2 減収・倒産・解雇

近年の不況は対象者の親に少なからず影響を及ぼしている。もともと低学歴の不安定な職業従事者であったために、不況の影響をもろに蒙っているのである。自営業を廃業したり、賃金の低下を経験している者もいる。会社倒産の不安を感じている者もいる。仕事上の怪我、病気を経験している者もいる。それは直ちに解雇や減収につながるのである。

親の学歴は、中卒、高卒である。(40cm)の父親は、小学5年の時、母が再婚した相手で、地方から出てきて高校定時制を出ている。正社員でトラックの運転をしてきたが、心筋梗塞で倒れた後、復帰している。しかし倒産の危険を感じている。(26cf)の父親はトラックの事故で大怪我をし、解雇された。そのため、(26cf)は家計を察して進学を断念して、パート仕事をしている。

(お父さんは正規職員?) そうですね。(給料は?) 今、下がってきてますね。不景気言うて。トラックでも配達するのが減ってきてるみたいなんですよ。それで、最初トレーラーって乗ってたんですよ。わかります? (でっかいやつ?) そう、でっかいやつ。免許はいっぱい持ってますね。危険物とかいろいろ。でも、トレーラーから10トンぐらいのトラックになったんですけどね。(長距離?) いや、長距離じゃないです。近場ですね。(最近、仕事減ったと?) 言うてますね。会社がぶつつぶれるかもしらん、言うてますね。

<40cm・19歳・高卒・男性>

(お父さんの学歴は?) お父さんのですか。お父さんは何か、田舎が〇〇なんです。そっから中学ぐらいのときにお姉ちゃんとお父さんと弟で3人で暮らし始めたんですよ。(〇〇で?) △△市で。こっち出てきて。(集団就職?) いや、で、高校のときに夜間に行きながら働いとったみたいな言うてんですよ。夜間も3年ぐらいでやめたみたいな。

<40cm・19歳・高卒・男性>

(お父さんはずっと同じところに勤めているの?) いえ、今の会社は2年目くらいですかね。前、働いていた所で、運送会社だったんですけども、大きな事故起してしまって、怪我して1ヵ月くらいもう仕事ないっていうか、「連絡するまで来なくていいから」って言われて、で、1ヵ月経ってもぜんぜんなんの連絡もなくて、こっちが辞めさせられた様な状態だったんですよ。(運送会社って、トラックの運転手だったの。ちょうど2年前っていうと、あなたが就職する頃。専門学校の話、考えないでもなかったとき親から「就職してくれ」って言われた時って、お父さんが大変だったとき?)。はい。

<26cf・20歳・高卒・女性>

3.3 きょうだいの職業

対象者のきょうだいも無業、非典型雇用であることがめずらしくない。それは、親の職業の影響であるとともに、きょうだいのフリーター化が、モデルとして他のきょうだいにも何らかの影響を及ぼしていると思われる。地域全体の不況をきょうだいとともに蒙っている場合もある。(12df) (18cf) (51em) は、きょうだいもフリーターあるいは無業の状態にある。

(51em) は、親と別居して同棲している。バンドで身を立てようとしている。彼の弟は無業者だが、弟のことは親もあきらめているという。(35em) の例からわかるのは、きょうだい

の間でも、学校卒業年によって雇用市場の状況が異なり、近年卒業した者ほど、不況の影響をもろに蒙っていることである。

お姉ちゃんはもう学校卒業してるからアルバイト行ってるんですよ。

<12df・20歳・専門中退卒・女性>

(弟は高校を卒業して…?) はい。就職はしてなくてバイトを。今は探しているみたいだけれども。今は多分、何もしていない。(弟は、なぜ就職しなかった?) 学校からはもうするとかと言ってるんですけど、何でやろう。何かいいところがないとか、そんなことを言っていて、自分で探すみたいなきもちだった。そのときは普通にバイトをしとったから、多分、そんなに焦って就職をしなくてもバイトがあったから、と思うんだけど、今はやめたから。(どんなバイト?) 飲食店。居酒屋さんです。(ずっとやっていたの?) 高校時代です。

<18cf・20歳・高卒・女性>

(弟は) 何もしていないです。高校も出ていないです。(中卒? 中学は〇〇中学校?) そうです。(弟は中卒からアルバイトとか?) いや、何もしていないです。一応高校はここに行っていたんですけど、途中でやめて、専門学校へ行くといって専門学校へ行って、やめて。(途中で?) そうですね。(専門学校は?) ゲームとかのクリエイターの学校。(弟は全くのフリーター?) パチプロをやっているらしいですけど、僕よりお金を持っていますね。この間家へ行ったら、箱の中に 70 万ぐらいお金があって、何やこれという感じのお金を持っています。(パチンコだけで?) 信じられないでしょう。でもほんまにそうなんですよ。(パチンコ歴は長い?) いや、そんなことはないはずですよ。

<51em・22歳・専門卒・男性>

そうですね。何か姉が 2 人まだ家にいて、結構家にいるほうで、あまり出てけとかは。(お姉さん 2 人が 4 こと 7 こと違うという。それで、お 2 人もまだ未婚でいらっしゃるんですか?) そうですね。(で、うちにいて、お 2 人はどっかで働いていらっしゃる?) 1 人が〇〇のほうで働いていて、もう 1 人は派遣で近くで。(2 人とも大学…?) 短大ですね、2 人とも。(短大で、すぐ就職して?) そうですね。(〇〇とかは、じゃあ、ずっと同じところに働いている?) そうですね、それが上の姉なんです。多分、バブルのちょうどぎりぎりか、ちょっと経過したぐらいで、まだ就職状態がいい。下の姉は、もう最低最悪というか、質も落ちたかなと。(そういう意味じゃあ、お姉さんは比較的大企業の、ある意味、いいところに入れた?) そのときは、そうなんです。何かボーナスは 1 年目が一番よかったって言ってましたけど。

<35em・25歳・大卒・男性>

3.4 夫妻共働き・一家総働き

関西・東北の対象者の場合、世帯主の賃金が高くないため、夫妻共働き、あるいは一家総働きで家計を維持するのが一般的である。一人あたりの賃金は、一家の生計を維持するには足りないが、賃金のもちよりによって生計を維持することは可能なのである。子どものアルバイト収入も、家計にとって不可欠の収入である。高卒後、スムーズに定職に就く事ができた時代には、この家族周期段階は、家計にとって「栄華の峠」(鈴木栄太郎 1944)であった。子どもの教育期間が終わり、まだ現役の親と、働き始めた子どもの収入を合算すると、生涯でもっとも余裕のある経済状況となったのである。しかし、近年の雇用悪化のなかでは、子どもの収入は、「栄華の峠」をもたらすには脆弱すぎるのである。

(43cm) (24cf) (27cf) (25cf) は、東北のケースである。職種は雑多であるが、夫妻共働きである。(25cf) は、この地域ではかなり職業的安定性の高いケースといえよう。東北の三世代家族の場合、祖父母が農業をはじめとする自営業をやっていることも少なくない。いっぽう、関西の場合は、より雑多な不安定職種の組み合わせであり、専業主婦はほとんどみられない。

(両親ともお仕事ですか?) はい。両方とも仕事してます。パチンコ屋さんの店員なんです。(パチンコ屋さんって結構夫婦でやるもんね。じゃご夫婦だと少しは融通が利く?)。はい。一応親父の方が、主任という関係なんで一緒に休みは取ってるみたいですが。

<43cm・20歳・高卒・男性>

(曳き前って言われてるんだ。24cfさんが小さい時から自営の曳き前士なの?) おじいちゃんの時から。(お母さんは、24cfさんが小さい頃からやってらっしゃるの?)。ヤクルトの配達。最初は美容師だったんだけど、日曜休めないから転職して。

<24cf・19歳・高卒・女性>

(お母さんは)農協の方で野菜の選別作業みたいのをやっていますね。(月)15、6万くらい稼いでるのかな。父は塗装の方をやっていますね。

<27cf・18歳・高卒・女性>

(お父さんは高校を卒業して警察官になられて、お母さんは専業主婦ですか?) 看護婦です。

<25cf・19歳・高卒・男性>

3.5 再就職型

首都圏では、専業主婦をやったのち再就職をしている母親が、とくに高学歴層に多い。再就職の理由の第一は、子どもの教育費のためである。低学歴層の場合は、関西・東北と同様に、共働き・総働きである。

(2am) は、不登校のため中卒後はフリースクールへ通った。教育熱心な環境で、姉は大学卒である。フリースクールの費用がかさみ、姉の教育費とも重なり、家計が逼迫するという時期があった。この頃から母親は再就職して働いている。(8dm) は、親もきょうだいも大卒で、本人は大学が合わず中退し、その後専門学校に入った。進学するのがあたりまえの家庭環境で、教育費は家計にとって避けられない費目であった。

父は定年退職して、今は配達のアルバイトのようなことをやっているみたいです。今、ちょうど60ぐらい、61かな。(定年退職は)多分、58のころだと思います。年金はまだもらってないと思います。母は今、58か9ですね。会社で事務のようなことをやっていますけど、やはり肩たたきにあってるらしいです。ずっと勤めていたわけではなくて、結婚するまでその会社で働いていて、結婚してやめて、それですべて専業主婦のようなことをやっていたんですけれども、姉がちょうど大学に入る2年とか1年前ぐらいのときに、とにかくお金が必要になったと思うんで、昔の会社に行って事務のようなことをやるので働かせてくれるということで働いているんだと。一応、月給制みたいですね。厚生年金には入っているらしいんですけど、時期が短いので、もらえる額は少ないと…。

(フルタイムの正社員?) そうらしいですね。

<2am・22歳・中卒・男性>

(8dmさんはご家族は?) 両親と弟が。(弟さんがいらっしゃるんだ。) はい。今、大学生。(ご一緒に住んでらっしゃるの?) はい。父はずっと同じ会社で、大学出てから同じところに。最初、会社の本社みたいなところに入って、それから本社から出向。それからまた最近、別な会社に、また関連会社に異動してサラリーマン。(お母さんは専業主婦? パートか何かなさっているの?) 結婚してからぐらいかな、弟が小学校に上がったらちょっと働かって言っていたら、たまたま近所の会社に、そこから来てくれって言われて、税金のこととかあるから、ぎりぎりのところで? 時間だけということで、ちょうど半分ぐらいの時間におさまるような働き方。

<8dm・24歳・大学中退・男性>

3.6 小括

低学歴層の親の職業は、非正規の不安定雇用、あるいは自営業など雑多の職種である。そのうえ、近年の不況の影響を蒙って、減収したり、いつ仕事を失うかという不安をかかえた状態にある。きょうだいの職業も似たり寄ったりである。このような家庭では一家総働きが一般的となっている。ひとり分の収入は多くはないが、持ち寄れば家計は安定するのである。いっぽう、高学歴層においては、子どもの教育にお金をかけるのは当然とされているが、父親の収入だけでは果たすことができず、母親の再就職(パート)は教育費を賄うために避けられない状態である。

4. 家計状況と親子の経済関係

対象者の家庭の経済状況には当然のことながら違いがある。関西のケースの多くは、親の不安定な就労に規定されて低所得である。東北のケースも高卒後子どもを進学させる余裕がない。一方、首都圏のケースは経済的には進学させる余裕のある家庭が多い。家計状況によって、親子の経済関係は異なったものになる。親が低所得で家計に余裕がない場合は、親から子どもへの経済援助は早いうちに打ち切られ、逆に、家計援助を要求される場合もある。他方、親が高所得であれば、親から子どもへの経済援助の期間は長くなり、高等教育費用をはじめ、日常の金銭援助、車の購入、旅行、資格取得のための費用にいたるまで、親の援助が続く傾向がある。これらの実態をみていこう。

4.1 逼迫した家計状況

低所得家庭の場合、子どもは家計に余裕がないことを、小さい頃から認識している。これらのケースは、高校時代から本格的にアルバイトしているが、それは、「こづかいは自分で稼ぐもの」と自覚しているからである。彼ら・彼女らは、親に依存することができないだけでなく、不和、放任、病気、借金などを体験し、親の理不尽な横暴にもさらされている。このような環境にあつては、自力で稼ぐことは貧困からわずかでも脱出し、親から解放される手段なのである。高校時代にアルバイト収入の一部を家計に入れている者もいる。いったんア

アルバイトを開始すると、親に経済的に頼る（こづかいをもらう）段階は終了したと親子双方で認識するようである。

(17cm) は父親の事故、(37cm) は父親が博打に興じて家計を放置、(23cm) は長い年月を借金に追われる家計、(51cm) は家業の長期衰退、(6bf) は父親の会社の経営不振、(50cm) は父親が商売に失敗して借金返済に追われ、(21cm) は父親の死亡に加えて、母親の精神病からくる生活破綻者的なライフスタイルによって辛苦をなめてきた。子どもはそのような環境を甘んじて受けるしかない。彼らは、遅くとも高校時代から、アルバイトをやらなければ満足に暮らせない状況に置かれてきた。

(お父さんは仕事について家で話されます?) 会社がつぶれる。つぶれてはないけど。
(お父さんの金銭面について、お母さんから聞いたことがある?) ある、愚痴ってた。
(お父さんと話は?) せえへん。ちょっとしかししゃべれへん。嫌い。(お母さんとは頻繁にしゃべる?) うん。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

(家の経済的な状況) は、よくないとは思いますが。(苦勞した思い出は?) 小学校5年ぐらいのときに、お父さんが車で事故を。それですごい大けがをしたんで、さっぱり仕事してないとかいう時期が多分何年間かあったと思うんです。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

お金がなかったですね。ほとんど博打に使ってたんで、お父。競馬・麻雀が一番ですね。それが原因で。(お金は?) 全部自分のもん。(で、それが出て行かへんかったら、そんなに、ほんまは苦しいなかった?) そうですね。お母んの収入だけでやってた感じですね。全然、入ってなかったらしいです。(しんどかったんですか?) そうですね。

<37cm・19歳・高卒・男性>

(家が経済的に苦しいと思い始めたのは?) あのね、ぶっちゃけた話ね、いつ頃かなあ、小学生の頃から、結構借金あったんですよ。借金の額が1,000万ぐらいあったんですけど、それを返しながらやってたんですね。返しながらでも結構生活とか普通にできてたんで、かなり給料がよかったんですけど、高2とかの時にはもう返し終わってたんですけど、それでも生活ちょっと苦しかったんですよ。だから、絶対そんな余裕ないじゃないですか。かなり給料も落ちてるんで。そういうことと思うと、やっぱ(上の学校へは)行けないですよ。

<23cm・21歳・高卒・男性>

(経済的に苦しかったのは、お父さんが亡くなってから?) そうです。自営業やったから、収入が一気になくなるわけやし、いろいろあった。(家は?) 借家です。家とかには興味はなかったみたいで、買わなかったっておかんは言ってました。買ってたらよかったなとかいう話ししたんです。

<45cm・24歳・高卒・男性>

(そうすると、お父さんが亡くなったあとお母さんが1人で働いてという形になったんですか?) それで、そう簡単にうまくいかない。働いてないんです。(そうすると、何か保護を受けるとか、そういうような形なんですか?) その手もあったと思うけど、お母さんの母が戦争経験者ですので、パンの支給とかあっても、おなかすかしていても捨てちゃうような人だったんですね。(ああ、そうなんだ。そういうものは受けたくないというタイプだったのね?) 人の意見かもしれないけど、ちょっと他人事のように、自分の身内の人をけなすとおれの恥にもなるからそこまで言いたくないんですけど、た

だ、プライドの高さが悪いほうに出たことは確かですね。母も母で、プライドは高くて、おれから見ると、我を張るのもいいんだけど、ただ、責任を全うできる範囲内でやってくれるんだっただれも文句言いません。でも、やっぱり勤めてもらえていないわけですね。我だけを押し通すという人だったですね。そういうことがあるんです。(そうすると、かなり収入がない状態で、ぎりぎり生活するような感じだったんでしょうか?) 一応買い出しとは僕が行かされていたんですけども。

(お父さんが亡くなる前後から、家計はかなり厳しい状態になってしまった。家計のほうは、もうお父さんが倒れられて入院されていると、かなり厳しくなってきたんですね、この頃から。)

<21cm・31歳・高卒・男性>

(家の暮らし向きは?) 店を畳むというよりも、おじいちゃんがもうあかんようになってしまったんです。仕事は来るんですけど、小さい仕事でしんどいばかりだから、親戚のおじさんとかもやっていたんですけど、だれか息子らが継ぐんであれば機械を入れてやるけれども、やらのだったら入れたら借金だけ残るからやれへんしという感じ。でも、小学校、中学校ぐらいのときに「やるか」と聞かれて、僕は何も考えていないから「やらないよ」と言っていて、「それならやめようか」となったんです。だから、ずっと貧乏ですけど、そんな急激に借金まみれにというわけではなかった。(中略)(生活は)多分平均だったんでしょうね。自分らがそんな暮らしばっかりしていたから、僕らにそういうふうにしたくなかったんでしょうね。だから、子供にはわからんようにしていたんだと思います。

<51em・22歳・専門卒・男性>

(ちなみに、お父さんはどんな仕事をされてるんですか?) 清掃業だと思う。(若いころは違う仕事ね?) いろいろやってみたい。(いろんな仕事してたの?) はい。(借金つくっちゃってから、ほんとにあっちこちで手当たり次第に仕事してきたっていう?) だって、飲み屋とかやって、借金つくっちゃって。(そうか。) 飲み屋を結果的にやったのは、違う人間なんだけど、その人間が空き巣で逮捕されちゃって。で、そのことをずっと隠してたの、おれたちに。母親のぐあいが悪くなったっていつて。で、2ヵ月たって逮捕されたって言われて、何、それって感じだよ。母親もびっくりしたけど。何か去年あたりも、その人が何か前の職場あたりでおやじが何かやったって悪口を流したらしくて、おやじが回って、そんなことはないって。(言って歩いたの?) うん。腐れ縁結んじゃったって感じかな。(何かお父さんもじゃあ、結構苦労してるんだね。) そうね。とりつかれちゃって。(ちょっとお父さんの学歴とか聞いてもいいですか?) 大学行ったらしいよ。(大学行って、卒業されてる。) 借金ばかりしてる田舎っぺじゃなくなっただっていう感じですね。(そうなの。昔はそんな感じだったの?) 借金3度もやったの。(何かやっぱり仕事をしようかなって感じだった?) 帰ってこなかったときに、お金を使ったらしいのね。(なるほどね。そのときの借金で、ちょっと首が回らないみたいになっちゃったんだ。) そうね、母はそう言ってたかな。何でいつ、何で自分が使ってもいないのに、こんな借金を払い続けなきゃならないんだろうと。(お父さんがその借金があるから、頑張ってるんだ。) 頑張ったんじゃないの。真意はわからないけど。(それで、2人とも、結局先にお父さんが倒れて、病気になって、それからお母さんもぐあいが悪くなって、で、2人とも入院しちゃった。)

<50em・25歳・専門卒・男性>

4.2 こづかいとまかない費

前段で紹介した極端な貧困のなかで育ったケース以外でも、余裕のない家計状況で育った場合は、自分のこづかいは自分で稼ぐという自覚を高校生段階でもっている。高校時代のアルバイトは関西・首都圏では広く普及しており、それをこづかいにあてている。このようなケースの場合、学卒後の仕事も、高校時代のアルバイトと本質的に異なるものとは位置付け

られていない。また、在学中もその後も、日常のこづかいだけでなく、(17cm)のように、車の免許取得など、特別な支出を自分でまかなっているケースもある。さらに、収入の一部を親に渡している者もいる。それは少額とはいえ、親にとっては不可欠の収入となっている。

(17cm)は、親の離婚・再婚・死別を経験し、複雑な家族関係のなかで、実家と祖母の家を行き来して暮してきた。親に頼れないばかりか、早い時期からまかない費を求められ、さらには定時制高校の奨学金さえ親のものになってしまうという状態であった。(21cm)は、母子家庭で、精神病の母親をかかえて、中学時代から自分のお金でまかなわねばならない状況にあった。(41cm)(1am)は中学卒業後は、親の家においてもらう以外は親に頼ることのできない状況であった。(4bf)の場合も、パチンコに興じて家庭を放置している両親のもとで、早くから親に頼れないことを察して行動してきた。

(親の家と祖母の家を行き来している。高校の時のアルバイトの月8万ぐらいは)家にいるのが長いときは家にちょっとお金を入れて、おばあちゃんちのほうに多かったらおばあちゃんちのほうに持って帰る。(お小遣いは?)僕は全然ですよ。(月決めでもろったりしてるわけではなく?)はい。(言ったらくれるの?)おばあちゃんにもらってました。(笑)(お金を家に入れているのは?)それは何か…。善意…。何か、普通に…。(友達と)は、あんまりそういう話はしてない。(お世話になっているから、何がしかを入れておかないと、と自分で思って入れ続けている?)はい。(おばあちゃん)ありがとう、うれしいわとか。だけど、もう(親の)家には全然入れてない。(今まで、たくさん家にいたときは、今のお母さんに渡すの?)はい。(車の免許のお金は全部、自分で出した?)はい。(奨学金については?)でも、僕は、奨学金というのは全部親が持ってるんです。だから、何なんって思うんです。(笑)わからんけど。(奨学金がお父さんとお母さんのお小遣いみたいに見える?)そうですね。(その使い道は何に?)授業料は知れてるし。だけど、何か聞けない。(笑)

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

(アルバイトで稼いだお金はどんなふうに使っていたの?例えば自分の食事とかなんか、そういうこと?)食事、洗濯、あとおふろ。自分の役割。家庭内の役割がその洗濯、おふろ。人のはやらないけど、自分のだけなんですけど。あと、洋服買ったり、そんな感じです。(待って待って、洗濯、おふろと言ったのは、自分用でふだんも家ですという話?それともクリーニング代金なの?)コインランドリー代です、ごめんなさい。(あっ、コインランドリー代ね。なるほど。)おふろは、故障してて直さないから銭湯まで行っていたんです。(ああ、なるほど、そういうことなんだ。食事というのは、朝とか晩も含めてという意味なの?そのころ、ちなみにお母さんは御飯の支度とかしない状態だったの?)支度はしていました。一応インスタントラーメン5コ入りのやつを1袋テーブルの上に置いてくれて、つくりなさいという感じなんです。御飯は、ノリとオカカをつけて、自分が食べるような御飯は出してくれました。(そのぐらいの食事だけを用意してくれるという、そういう感じだったのかな?)はい。(それ以外のものは自分で買って食べる?)そうです。(そういうような家庭環境になったのは、もう随分前からなの?中学のころからはずっとそんな感じだったの?そうすると、あなたが高校に進学するころというのは、もうご長男、次男の方も社会人になっていましたよね?)そうです。(もうそれぞれ就職されていた?)一応はしていましたけれども、あちこち転々としていたということはありません。一番上の兄は私立の高校へ行っていたけど、中退してしまっただけで、もう一度学校に行き直そうということで、夜学に通っていました。僕が高1ぐらいからだったんですけど、4年間通っていたんです。2番目の兄はいろいろ

ろな仕事をしていました。営業所でやったり、工場で働いたりもした。警備の仕事も…。
<21cm・31歳・高卒・男性>

(高校時代はお小遣いとかって親からもらったりしてたの?) ないですね。高校入ってから全く何ももらわないです。御飯もらうだけです。

<41cm・22歳・高卒・男性>

お小遣いはだんだんと親に対して言うのも、親が働いているお金でそんなん何かというのがありましたし、自分の金ではないんやぞという感じです。お金をもらっても、これはお父さんが働いてくれたお金やから、自分で働いてやったお金じゃないという。気を使うんですよ、「お金をちょうだい」と言うのも。

<1am・24歳・中卒・男性>

(高校時代のバイトは?) 家にお金入れようと思って。中学卒業する前から、高校入ったらバイトしてやって。ずっと言われてて。うん、するって言ってて。家にお金ちょっとでも入れてほしいけど、みたいな話をお母さんがしてて、わかったって。

<46cf・19歳・高卒・女性>

(それはなんでバイトをしよう?) 遊びに行くお金がほしいから。(お金ほしいなあと。親から小遣いももらってたりとかは?) 小遣いっていうのは決まらんと、ほしい時にはほしいだけもらってたりしてた。(高校入ったら自分で稼ごうとそういうことですよ?) そうそう。(親からもらうのは悪いとかそういう感じ? それとも自分でもう高校生だからって?) 親にあげようと思っててん。お金を。思ってたんやけど、やっぱ給料こんだだけやからあげたらもったいないと思った。(親にお金をわたそうと思ったのは何でそんなことを思ったんでしょう?) 勝手に親の財布からとったことあったから。(それは渡そうじゃなくて返そうかな(笑)) でもばれるねんけど、いつもごめんなごめんなで許してもらってたから。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

これらのケースほど家計が困難でない場合は、高校が終了した段階で、たとえ進学した場合でも、アルバイト収入を家計に入れているのは当然と認識するようになる。その金額は1万円から3万円程度であるが、この金額は彼らの収入額からみて限度なのであろう。親やきょうだいから、出すようにはっきり言われている場合もあるが、言われない場合でも、本人はそうすべきであることを自覚している。それだけ家の経済事情を察しているのである。専門学校へ行っている場合も、親に頼れるのは授業料だけという状態である。収入が少ないので親からまかない費を免除されている場合もあるが、収入が増えれば入れなければならないと本人は自覚している。親にまかない費を入れるかどうかは、当人の年齢も関係していると思われる。17歳の(3bm)は、今のところ親から免除されている。しかし、高校を卒業すると払うのが当然となるようである。(16cf)(39cf)のように、収入が少ないため免除されることもある。

(アルバイトをやろうと思ったきっかけは何ですか?) お金がない。(それまでは、自分のお小遣いはどうしてましたか?) お母さんにもらってた。(免許をとったのは?) 18歳のとき。(車は)中古で買ったから。20万円くらい。(お母さんにもらっていたお金を貯めていたのかな?) 貯めてた。去年買った。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

(家に金を入れているか?) してない。しろとは言われてるけど、そこまで余裕ないから。遊びに使う金しかないから。でも、(親は家に入れろと) 本気では言ってない。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

(就職するとき、学校の先生とかが?) いやもう「近いとこ、金、いいとこ」いう位で、僕が自分で決めた所です。(家から小遣いは?) もうバイト始めてからは、ほんとに貰ってないですけど。(二重取りは?) そこまで、できなかったです。ほんまに。(お金は今) ちょっとだけですけど、家には入れるようにしてますけど。(お兄さんは働いて、家に入れてはる。当然やね。それまでは結構大変ですよ?) そうですね、兄貴が卒業するまでは。(そんなん、見てきてはるから、ちゃんとアルバイトのお金入れてはるんや?) ほんまに、それぐらいはしとかんと。(アルバイトしてはって、そのお金は今、なんぼか家に入れて、後は生活費はまあ飯くわしてもらったりするから、あとはもう自分の小遣いで?) そうですね。(さっき言わはった10万円ちょっとやな、家に何ぼくらい入れてはるの?) 3万円。

<37cm・19歳・高卒・男性>

(さっき経済的に苦しいとっていたけど、そんなに経済的に苦しいとは思えないけど、それだけみんな働いたら?) いや、厳しい。いろいろ入ってまして。いろいろあって厳しい。はい、かなり。(家にもお金入れたりする?) してます。(いくらくらい?) 家には3万。

<19cf・18歳・高卒・女性>

はい、妹が今年この高校に入学してお金がかかるということもあって。(妹さん、この4月から入っているの。これは25cfさんがお金がかかるから就職しようと思ったの? ご両親は?) はい、親も「やっぱりお金がかかるからできれば就職してほしい」って。(その時なんか「残念」とか気持ちあった?) はい。(もし何か利用できるような奨学金とかあったら利用していきたくとか?) 思いましたけど、やっぱり親のことも考えると、自分で働いて少しずつ入れて、毎月入れた方がいいかなって。(ご両親思いだね。収入のどれくらいを家に入れているの?) 2万円くらい。(今はご両親から小遣いもらっていないの?) もらっていません。(貯金するのは目標があるの?) 一人暮ししたいのと親を旅行に行かせてあげたいと思っている。(えらいそうなんだ。自分の旅行じゃなくて親に旅行なの。自分は?) 自分もしたいんですけど、親。(親に旅行に生かさせてあげたい? 25cfさん海外に住みたいっていついたけど。お母さんはいつきたことあるの?) ないんです。

<25cf・18歳・高卒・女性>

(今、幾らか入れてる?) は、入れてないです。(両親は) 初めのほうは言ってたんですけど、お金がない、お金がないって言ってたら、言わなくなっ。

<16cf・24歳・高卒・女性>

うん。それに結構、友達とか月に4万家に入れろとか言われてる人いてるみたいなんですけど、私もそのほうがいいのかとか思って、何万とか考えてて、何か家の人に言われるかなとか思ったんですよ。その、お母さんとかには言われへんくても、お姉ちゃんとかに「あんた家にお金入れや」とか言われんのかなとか思って、ああ、じゃあ2、3万とかって考えてたんですけど、誰も何も言わんから、全部自分のものみたいな(笑)

<39cf・19歳・高卒・女性>

(働いていたお金は) 半分くらいうちに入れていました。(半分くらい入れてた。すごいね。それでもまだ普通の人くらい残る。それで貯金していたんだ?)。一応自分でも貯金していたし、親にやった分で余ったら「貯金しといて」とか、そういうことしていました。

<43cm・20歳・高卒・男性>

(専門学校の時) 学費とかは、さすがにお母さんに払ってもらったけど、そのほかの面では、ほとんど自分で払ったし、それが当たり前かなと思っちゃった。アルバイトしてお金あるんやったら、携帯代も払うのが当たり前やし、服とかもわざわざ出してもらわないから、自分でそういうのは考えて…。お父さんは、そんなに、あんまりうるさく言わないほうです。(専門学校の時、お小遣いをもらったり…?) しないですよ。もうアルバイトしたら——携帯を持ちたかったんです。それでアルバイトして、全部携帯代も自分で払ったし、アルバイトしてから、自分のことは自分でやっちゃったから。(生活費をお母さんに家計のために渡したりとかありましたか?) 一応私も言うたんですよ、お母さんに。「支給しようか」言うて。(初めのアルバイトのとき?) そうですね。一番初めの〇〇のアルバイトするときも、「ちょっと足そうか」とか言うてみたけど、「もうそんないいから。自分のお金やから自分でとって大事に扱い。貯金するんやったら貯金したり。大丈夫やから」って言うて。

<12df・20歳・専門中退卒・女性>

(楽器購入時に、親から借りたお金は) 一応返した。でも、そんなにいいのは買っていない。2万円か3万円。(親にお金を返したというのは、アルバイトをしてた?) いや、月のお小遣いをちょっとづつ残したり、たまっていたのもたまっていたので、あとちょっと借りただけ。だからちょっとだけ返して。

<51em・22歳・専門卒・男性>

4.3 家計事情から進学を断念

高卒後、大学や専門学校へ進学するのが、家計の状況からして困難なケースがある。(2am) は、不登校後に通ったフリースクールの費用がかさみ、専門学校への進学が経済的に苦しいため断念したと語っている。(1am) は、ミュージシャンになるためのオーディションで東京するのを経済的理由から断念した。(28cf) (23cm) (45cm) のように親からはっきりとは言われない場合でも、本人が状況を理解して進学を断念している。(26cf) のように親から明言された者もいる。

(フリースクールの最後の1年間ぐらいは) 毎月東京まで通って、すごい定期がかかるんです、学割きかないし。それで、親の経済状況のほうが悪くなったので、交通費を節約するために行かないでアルバイトをしていたりとかです。(フリースクールを卒業ということは、20歳までいれるんだからいてもいいんだけど、でも、19歳になるときにやめたんでしょ?) そうです。所属してるだけで月謝がかかるんです。あまり行かなくなるんだからこれ以上親に負担かけちゃ悪いなど。あと、同年代ぐらいの友達がその時期にみんな一斉にやめてて。(そういうお金を出していくのはある程度無理だな) その当時から普通に思ってたね。フリースクールを卒業するとき専門学校はどうかとか思ったりして、どういうところがあるかなと調べてみたんですけど、どこも何百万とお金がかかるので、自分でそれをとるのは大変だし、親に頼んでも出ないからなと思っていたので、とりあえずアルバイトをして、かといって、自分はこうなろうとか将来設計とかを描けられないし、お金が欲しいときはアルバイトをやって、お金をためればいいんですけど、そこまで踏み込んでお金を自分にとというのは…(経済状態が悪くなったというのは?) フリースクールに行っていることで、定期代とか列車とかで月間10万円ぐらいかかって、それですごく親に負担を強いたのが大きいのかなと反省していますけども。(突然、何かがあって悪くなったのではなくて?) 言われました。とにかくお金がないからフリースクールをやめなさいと、それははっきり言われました。(フリースクールをやめる) 1年前ぐらいに言われて、わかった、やめるけど、もう1年だけ行かせてくれと言って、行く日をすごく減らして、交通費をかからないようにしたり、アルバイトをしながら…。(じわじわと…?) むしばんでいきました。

<2am・22歳・中卒・男性>

(東京に出るなんていうふうな思いは?) 東京に出るですか。(向こうのプロジェクトの先生に)「出てこい」と言われましたけど、「もうお金がない」と言うたんです。言い切ったんです。「もうプロになるんやったら東京に出てきなさい」。「お金がないです。もう無理です」。僕は何回か行っていたんです。オーディションのために歌いにプロデューサーの前で歌いに行っていたんですけど、もうそれで尽きたんです、交通費もあれですから。そんなんをおやじに最近言ったら怒られました。「おまえ、それは行っとなあかん。それはお父さんに言うたらええんと違うんか」と言われたんですけど、そんなんむちゃくちゃでしょう。だって、学校のあれも払ってもらっているし、そういうのを何ぼ甘えというても、僕、16から働いて仕事のちょっとしかまだわかってないですけど、大変ということを学んだわけですし、そんなん今さらおやじに甘えろと言うたり、もうこれ以上は言われへんやろうという自分の中で、これ以上おやじにはもう言えませんよみたいな。

<1am・24歳・中卒・男性>

料理関係の専門学校に行きたかったんですよ。でも、親に反対されたんですよ。お金かかるじゃないですか。そのころ、おばあちゃんち、建てかえか何かしたのかな。で、その家のローンも払っているのもあるしというので、親にやっぱり悪いなというのもあったから、行くのやめたんですよ。

<28cf・19歳・高卒・女性>

最初僕ね、高1、高2の途中までは、大学行く気満々やったんですね。で、結構家計的にちょっと苦しかったんで、補助金借りてまで大学行くもんじゃないから、そこまでのことないしって思って、働こうって思ったんですよ。(お母さんから家計が苦しいと直接語があったか?) うーん、直接っていうか、何ていうんですか、おやじがタクシーの運転手なんですよ。でね、このころたしかめっちゃ不景気だったんですよ。で、すごい給料とか減ってね、言われるまでもなく自分でわかってたんで。(状況見て?) うん。親に甘えてられへんなあ。今、甘えてるんですけど(笑)。そのときは、何かそんな正義感がめっちゃあったんで、進学はあきらめましたけど。

<23cm・21歳・高卒・男性>

(高校に入ってもずっと就職希望?) そうですね。専門学校行きたかったけど、経済的に無理やったから、そこまで考えんと就職しよう。(CADの使い方講習会) お金はすごく…、何割か返ってくるみたいです。きついなと思って。母子家庭やし。(親に)頼れたら絶対行ってると思うんです。あと、自分でバイトしながら生活できたらいいじゃないですか。

<45cm・24歳・高卒・男性>

まあそういう部分もありましたけど、やっぱこれ以上、私立に入ったんで、親になんかあんまり経済的負担をかけたくなかったのもあるし。お兄ちゃんにもその頃すでに、子供いましたから、私が入っているころには…。やっぱ経済的にちょっと余裕がなかったっていうか、親としても就職の方を希望してたというのもある。(それは言葉としてちゃんといわれたの。親も「就職してほしい、いいんじゃない」とはっきり言われた?) はい。「進学だとお金がかかるから」って、「なるべくなら進学よりも就職の方してほしい」っていわれたんで、自分の中にも就職したいって気持ちがあったんで、それには全然反対とか反抗とかしなかったんで。

<26cf・20歳・高卒・女性>

(39cf)(24cf)は、親は進学をしてもよいといていたが、本人が進学の効用とそれによって失うお金を天秤にかけて進学をやめた例もある。一方、(35em)は大卒後、ワーキングホリディで海外へ行くにあたって、費用を親から「借りた」例である。親に経済力があり、

大学卒業後も体験や学習を経済的に援助できる親と、高校進学や専門学校進学もままならない親とがいるのである。

貧乏じゃないですよ。(生活は苦しく) ないです。どっちかっていうとお母さんは、あたしが迷ってたら、大学行ったら?とか言うような感じでしたけどね。お金はまああったみたいですけど、なんかやっぱり何百万とかガクッと減るとか考えたらなんか、やっぱりどうも行きたいとも思われへんし。(授業料、結構するし?) そういうところは別にいいって言ってたんですけど、別にめっちゃめっちゃ行きたいわけでもないのに行くのもなんかなあと思って。

<39cf・19歳・高卒・女性>

でも、下の弟ふたりが「進学したい」みたいなこと言ってたから、それも少し考えて、もう専門学校はいいかなって。(あ、ちょっと遠慮したっていうか。2人だもんね。) ちよっと大変かかる、ね。(ご両親は専門学校に行きたいんだったら費用は出してあげっていう話だったの?) 多分。詳しくはそういう話はしてないけど、「やりたいことしなさい」っていうことはそうかなって。

<24cf・19歳・高卒・女性>

(今年の1月から。で、ニュージーランドに10月から行くまで、卒業して、しばらくそのパチンコ屋でバイトして、お金稼いでってこと?) 金稼いで、そうですね。(それで、ニュージーランドに?) でも、全然足りなかったの、親に借りたんですけど、ちよっと行く前に借りて。ちよっと用があって、最初、2月ぐらいに行く予定だったんですけども、時期を早めて。

<35em・25歳・大卒・男性>

4.4 小括

関西のケースは、家計が苦しく、高校時代もアルバイトで自分のこづかいを工面しているのが特徴である。なかには、親に数万円を渡していた者もいる。親には頼れないという自覚が早いうちからあり、高学歴層に比べると、経済的には早期に自立しているともいえよう。高卒後、進学する経済的余裕はない。卒業後は、収入の一部を親に渡している。親のなかには、お金さえ入れば、職業形態は何でもよいとする者もいて、子どもの就職に関心がない。このような家庭環境の反映で、長期的な見通しをもって職業選択をしたり生活設計を立てることよりも、当面お金が入ることを優先させ、利率的にアルバイトを重ねるという傾向がみられる。

東北のケースは、地域経済の悪化の影響で、親たちの就業条件もよくない。勤め先の倒産、リストラ、減収などが家計を悪化させている。その結果、高卒後進学させる余裕がない。就職口がない場合でも、オールタナティブとして子どもに進学の道をとらせる経済的余裕がない。職業的知識やスキルを引き上げるために学校へ行かせるだけの資力がないまま放置せざるをえない状況がある。関西や首都圏と比べ、高校生のアルバイト機会は限られているうえに、高校生のアルバイトは大都市ほど一般的ではなく、高校は原則として禁止している。そのため、関西のように、早期に親から経済的に自立するという動きはない。

一方、首都圏では、子どもの教育に対する関心が高く、大学進学があたりまえの環境で育

っている。進学が経済的に可能である点は関西・東北と大きな違いであるが、それでも教育費負担を乗り切るために、母親がパートで働くことは一般的である。アルバイトは大学に入ってから開始されているが、その収入はこづかい源として不可欠となっている。就職難に直面して、さらに職業能力を高めるために、専門学校等に行つて資格をとろうとする傾向も強く、親がかりは期間はますます長期化している。

5. 親のしつけ・養育態度・子どもへの期待

学校時代の学業への姿勢は、親の教育方針・養育態度が関係している。同様に職業選択、その後の職場への適応においても、それまでの期間に子どもの職業選択に関して親がとってきた姿勢・態度と無関係ではない。また、生活設計に関しても同様の指摘ができる。

関西の場合、子どもに対する親の態度は無関心と放任という特徴をもっている。進学や就職に際して、そのことに関心を払って子どもと話し合ったり助言したりすることがない。親からは「なにもいわれなかった」が特徴である。概して、親から何かを期待されたという経験がない状態で育ってきたため、職業選択においても、とくにやりたいことがない状態である。しかし、「やりたいことがない」ことを悩むこともない点が、大卒フリーターと異なる点である。結局、「お金さえ入れば、何をやってもかまわない」という認識がある。東北の場合は、子どもの進路に無関心というわけではないが、学校での業績に期待をしているというわけでもない。地元で就職できればそれでよいという意識であるが、その就職口が乏しく、従来のような地元志向のライフスタイルを完結することが困難な実態がある。

首都圏の高学歴の親は、高卒後の進学を当然と考えており、学校での業績に対する強い期待がある。親がサラリーマンだからそれ以外の職業選択を考えたことがないという者も多い。家庭にも学校にも、大学に行くのは当然という雰囲気があり、親の期待は時には圧迫となり、悩みとなり、親子間の葛藤を生じている。教育に関する競争的環境のなかでは、時として「なぜ学ぶのか」「学んでどうするのか」を考えることなくやみくもに勉強することになり、いざ就職という時点で躓く原因となっている。親子関係に関しては、子どもに寛大で理解をしようとする親が多く、コミュニケーションによって事を進めようとする点で関西、東北とは異なっている。就職難でフリーターになっている子どもに対しては、プレッシャーをかけまいとする配慮や思いやりがあるが、時に不安をのぞかせている。親が就職難に立ち向かう子どもによりそって情報収集をし、それとなく子どもの後押しをしている例もある。

5.1 学業に関する親の態度

低学歴層の場合、勉学に関しても職業選択に関しても、親の期待がおどろくほど少ない。本人は、子どもの頃から親に何かを期待されたという記憶がない。父親とはコミュニケーションがほとんどない。また、日常的なしつけに関しても、「なにもいわない」親が多い。そうでない場合は、一方的な叱責というやりかたで、子どもは親を恐れて口をつぐんでいる。学

卒時の就職に関しても、親は「何もいわない」「お金さえ入れれば何もいうことはない」という態度である。

5.1.1 子どもの学業への無関心

(4bf) は親から勉強に関して何かいわれた記憶がない。(6bf) (38cf) もそれに近い。(4bf) の両親はパチンコ狂いで、食事すら作ってくれたことがない。

(両親は勉強についてなんか言ってましたか?) ゆってたんかなあ。(記憶にない?) 全然記憶にない。(両親は口やかましく、しつけどか言わなかった?) うん。(好きにやらしてた?) ほったらかしっていったほうがいいんかなあ。(お兄ちゃんに対してもほったらかし?) そんな感じかなあ。たぶん。両親パチンコ好きやねんなあ。だから仕事終わったら (パチンコ?) あんまし相手にされた記憶もないし。

<4bf・高校中退・20歳・女性>

(親は、学業に関して何か言いませんでしたか?) 塾は言わへんかった。勉強せえっていう。お父さんは言わない。(お母さんからは?) でも、勉強ってあんまり言われへんかった。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

(小学校中学校の頃、お母さんから勉強面では何か言われてましたか?) うーん、あんまり、言われなかったと思います。(記憶にない?) うん、あんまり勉強のことは、あんまり言わなかった。(将来のことについては?) うーん、なんか、うーんと、とりあえず、なんか自分が、まあ、できる仕事があったら、なんかそれやったらいいんじゃないみたいなそんな感じ、かな。

<38cf・18歳・高卒・女性>

(46cf) は、父親と離別。母親から「高校だけは出るように」といわれている。小中学を通して勉強が得意ではなかったが、高校は行くものとして、なんとなく進学している。

(高校に行くことは) それは決めてた。行っとかなあかんかなみたいな。(お母さんから) 一応言われた。高校行くんかって。行っとかなあかんやろって言われて、うん。そうやなあって。(高校を決めた時お母さんからアドバイスがありましたか?) お母さん何も言わない人なんですよ。決めるときとかでも好きにしいやっつていっつも。

<46cf・19歳・高卒・女性>

(12df) の親は、親が勉強することを子どもに勧め、きちんとした方針で子どもに臨んでいる。たとえば、「うちのところ結構厳しいんですよ。高校でもいくんやったらちゃんと行き。アルバイトしとったら集中できへんから、それは高校卒業してから行き」といわれてアルバイトをしていない。関西のケースのなかではめずらしい方である。

お父さんもお母さんも高校行ってないんかな、家庭状況とかでいろいろ。昔やからあんまり裕福じゃないから、「高校だけは出て。その後は自分で決めたらいいし、大学行くんやったら大学行ったらええし。その後は自分で好きなようにやったらええで」って言うもったりしとった。

<12df・20歳・専門中退・女性>

5.1.2 進学へのあきらめと無関心

関西では、専門学校へ進学したのは(12df)一人しかいない。進学への期待が低いのは、それまでの学校生活において勉強が不得意であったり、怠学傾向が著しかったからという背景がある。専門学校に進んだ(12df)も、授業についていくことができないことを、親にも納得されて中退している。(28cf)は高校までの怠学が著しかったため、親は進学を認めなかった。このような場合、高学歴層と違うのは、進学に対する親の強い願望がみられないことである。

そうですね。卒業したら専門学校に行きたいなという感じ。でも、親に、どうせあんた、専門学校に行っても、今みたいにサボるだけやねんから、そんなんやったら行かんほうがいいみたいに言われたんですよ。ほんまに料理の勉強したいんやったら、どこかに、見習いで就職か何かして、勉強して調理師の免許とりなさいという感じ。

<28cf・19歳・高卒・女性>

(お母さんに進路のことについて十分相談したんですか?) そうですね、1回やめて、やめたって言っても、専門学校行ってたときに、勉強が不十分やったから、2年生に上がることができないんですよ。それやったら留年するかやめるか、どっちかみたいになって、絶対嫌やと思って、絶対留年はしたくない。友達が2年生に行って、私がまた1年生。年下の子と一緒にいるのが嫌なんですよ。絶対嫌や、それやったらやめると思って、どっちみちこんな学校も行きたくないし、もういいわと思って、もうやめて、お母さんともいろいろ話して、「もうそれやったらやめていいよ」って言うてくれたし…。

<12df・20歳・専門中退・女性>

5.1.3 大学進学が前提の家庭環境

関西、東北と比較すると、首都圏では大学進学があたりまえとなっている。大学へ進学して、よりよい職業に就くという人生コースを親は勧めている。子どもはそのような親の期待を受止めて励んだり、プレッシャーを感じて悩んだりしている。親、きょうだい、親族、そして学校や地域全体が、教育を通して身を立てていくという価値観をもっている様子は、先の関西、東北と大きく隔たっている。

(2am)は、学歴に対する期待の強い家庭環境で育ち、姉も大学を卒業している。しかし、中学1年から学校に居場所がないと感じるようになり、いじめもあって不登校になり、2年間の不登校の後、フリースクールへ通っている。(30ef)は、高校進学で不本意に女子高校へ進学したが、本人の意思に反して高校で附属短大コースに入れられたため、それに従わず放送関係の専門学校への進学を選んだ。(35em)も、大学進学が当然という環境のなかで育ち、塾や家庭教師の指導も受けている。大学卒業後、1年間ワーキングホリデイを利用してニュージーランドへ行ったが、その費用の一部は親に出してもらっている。

自分がそういう経験だったから、子供にはすごく大学まで行ってほしいとか言っているみたいです。ただ、姉にはすごくお金をかけたりとか…。家庭の状況というより、その

ころは世間がそういうふうになっていたから…。子供は小学校に行って、エスカレーター式に学校…、その教室みたいなのができていた。(おばさんというの?) 父親の妹にあたりますね。東京に住んでいまして、建築系の高校を出て、建築系の会社に勤めて、女性ですが、今、課長をやっているとか何とか…。(とても心配してくれてるね?) そうですね、当時は。今はすごくうるさく言われるので、いいかげんやめてくださいと言ったんです。あまりうるさく言わないように言いました。心配してくれたのは悪かったなと思わないこともないですね。小学生のうちにはまあまあでしょうかね。成績だけはよかったから。(お父さんの期待があったんだ?) そうでしたね。申しわけない気がしますけれども。(小学生の頃、友達で「君は高校行くの、僕は行きたくない」と言った人がいて)今でも記憶に残っているから、かなりセンセーショナルだったんですね。姉がいて、姉がもう普通にそれなりに優等生で、大学まで行って結婚してますから、そういう姉の生き方みたいなものが自分の中であって、圧迫していたのがあったようなものかもしれないですね。漠然と普通に生きるのはつまらなそうだなとは思っていたみたいです。

<2am・22歳・中卒・男性>

特に何も言わないで、むしろ私のほうが変に思い悩むというか、きつこう思ってるんだらうなという、プレッシャーはありましたね。あまり私、親から言われているので、自分にあまり必要ないものは多分聞いてないかもしれないんですけど、うるさいなみたいな感じ。もしかしたら大丈夫と言ってくれているのかもしれないんですけど、でもそんなにあまりわあって言うタイプではないんです。(親は基本的には好きなことやらせてあげようという感じ?) だと思います。

<30ef・24歳・技術専門卒・女性>

(それって、高校生のときもそうだったの?) 高校のときも…。(高校のときもまだずっとおばあちゃん子だったの?) 大学行く、進学というのは、もううちでは当たり前だったと思うんで、自分もそう思ってたし親もそう思っているんで、浪人したときは、何とか浪人させてくださいっていうふうには言ったけど、親も大学進学は当たり前だろうみたいな感じだったんで、適当に浪人させてもらって。(中略)でも、高校のときは塾に行っていなかったから、夜は親と話しかけたんですけど。だから、生き物を扱うというか、植物だから、そんな休みなんか取れるわけもないしというんで、もうほんとにずっとおばあちゃん、もうおばあちゃん子だったんですけど、それが大学2年の春に死んじゃって。それから、すごい考え方が変わったというか、何か就職とかも、大学卒業したら就職しなきゃいけないのかなみたいな疑問を感じるようになって。祖母の死と事故ですね。やっぱりすごい大学入ったときも、おばあちゃんが喜んでくれたし、そういうのもあったのかなという…。(進学についてなんかは、ちゃんと話をしたの。そのころちょっと多分、親に反抗的だっておっしゃったけど?)でも、反抗的ではあったけど、その時ってやっぱり、高校進学して大学行って、で、ある程度名前のある企業に入るといのがイメージとしてあったんで、当たり前のようにやって…。(そのことについては、親と話し合いもしたのかな? どの高校受けるのか) そんなしなかったとは思いますが。まあ、姉も行った高校だったんですけど。

<35em・25歳・大卒・男性>

5.2 就職に関する親の態度

5.2.1 子どもの就職への関心

関西の中卒、高校中退、高卒者をみると、親は就職に関して、子どもに何かを語るということがない。(1am)(17cm)は、日頃から父親と会話をしたことがない状態で、就職の話などする関係ではない。(18cf)は、親が子どもを「めっちゃあほだったから就職もできへんのちゃうか」と感じているように、子どもに関して匙を投げている。どの例をみても、親が就職

に関して何もいわない状態にある。職業に向けて子どもを社会化する力が家庭にはないのである。

(高校へ行って、その先どんな仕事についてほしいとか、そんな期待は聞いたことがありますか?) ないですね、あんまり。おばあちゃんが死んで、おやじと2人っきりになって、そこからまた再婚になるという話で、そこからもうおやじと会話がなかったです、ずっと。

<1am・24歳・中卒・男性>

(お母さんは口うるさく言いますか?) 別に何も言えへん。きっちりしたことせえとは言うけど、それ以外は別に口には出してけえへん。(お母さんからの将来への期待は?) 自分の好きなように。(でも、調理師学校より、見習いに行けとお母さんから言われたと?) それは、専門学校行っても意味ないから、そんなんに行くんやったら…。もしそんなんしてんやったら見習いで行ったほうが役に立つからそっちに行けって。それがしたいんやったら。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

(高校を卒業するとき、お父さんお母さんから話はなかったんですか?) そうです。「一応探しや」、それぐらい。「わかった」とか。(正社員のような仕事を?) があつたらいいなというか…。お父さんとは全然しゃべれない。ちっちゃいときから。何かしゃべられへん。怖いというのはあんまりないけど、お父さんとしゃべれないんです。

<17cm・19歳・定時制高卒・男性>

(将来はこうなってほしいといった話は?) 別に。「高校はちゃんと卒業して」とは言われていたけれども。進路を決めるときに、服屋の店員になりたくて、「学校からの就職はせえへん」と、親にも先生にも卒業の大分前から言っていて、それで何もせえへんかったし、お父さんもそのときは別に。めっちゃあほやったから就職もできへんのちゃうかという感じやったし、就職前とかになったら化粧とか服装とかも学校でめっちゃ言われるじゃないですか。だから、そんなのもうざかったし、就職をする気もなかったし、それは親にも言っていたから特に何をしろとは言われなかった。

<18cf・20歳・高卒・女性>

(就職についてお姉さんから助言は?) うーん、あんまり。短大行ってもあんま意味なかったとか言っていましたけどね。まだ若いから行けるとかなんか。

<39cf・19歳・高卒・女性>

(具体的な仕事については?) ない、な、この仕事をしてほしいとか、そんなんとか、ですか? それは全然ないです。(仕事はするもんだよ、っていう感じ?) うんうん、そうです。(お嫁さんに行きなさいとかは?) そんなことは、うん、あまり言わない。(今の状態についてお母さんはなんかいってます?) や、い、言ってないです。(今後のことについては?) あんまり、言われてないですね。なんか就職、いいのあった? みたいな。(今までで仕事の話をお母さんとしたことは?) 覚えてないです、はい。(本人が気にしてるの、よくわかってるからかな?) さあーどうやろ。

<38cf・18歳・高卒・女性>

(さっきのあれかな 20歳くらいまでに就職してくれたらいいって感じ。結構親にああしなさい、こうしなさいって言われることあった?) なかったです。

<25cf・18歳・高卒・女性>

5.2.2 親のとまどい・圧力・助言

安定した仕事に就いていない子どもに対して、親はどのような態度をとっているだろうか。子どもがフリーターでいることを非難し、定職に就くことを強く勧める親がいる。その役割をきょうだい果たしている場合もある。いっぽう、ほとんど何もいわない親もいる。

(45cm) は、工業高校に行きたかったが親に反対されて普通高校へ行ったために勉学意欲を無くし、卒業後も兄の会社でアルバイトをしている。大手に就職することを願ってきた親に、「人生の負け組み」だとなじられている。(41cm) は、最初は調理師をやめて定職についていないことを容認されていたが、時間が経つにつれて親の態度が変わり、厳しく攻め立てられる状況にある。(51em) は離家して同棲中であり、ミュージシャンを目指してフリーターをしているが、今後いっさいの責任を自分でとるよう、親から言い渡されている。

(親は例えばどんなことを?) 1回就職してるから、フリーターじゃ情けないとか。それぞれみんな、妹は美容師の道に進んでそれなりに目標持ってやってるけど、あんたには目標がないって。(中略) もっと大きい会社で、うち来いや、そんだけ売らんやったらうち来てくれみたいなのがあつて。おまえは人生の負け組やって言われます。負け組とかって。別に負け組でええよって。人生楽しかったらええもんとかって言って。(お兄さんからは) むちゃくちゃ言われます。一緒のところで働いているじゃないですか。そんなんじゃ就職できるの? それで通るかって。しょうもないとこやったと思うんやけど。

(高校のときの就職を探す条件は?) 大きいところ入りなさいという。親が。大手入りなさいって結構言いますやん。(つぶれなさそう?) そうです。(中略) ○○高行きたくなかったんです。(何で?) 僕はこっち系を進みたかったですから。でも、工業高校ってすごい親からしたら、あんまりいけてなくっぽくないですか。(普通科のほうが?) その時代、まだ普通科行ってほしいというのが。工業高校というのは普通科行けなくて…。イメージが。今だったら工業高校、手に職つけて。だから、僕も初め工業高校行きたいって言うたけど、普通科行きなさいって。その時点で僕はもう終わってしまった。

(建築関係に進みたいとお母さんに話した?) してないです。

<45cm・24歳・高卒・男性>

(お父さん、お母さんは仕事について?) 最初は全然言わなかったんです。調理師見習いやめて、ゴロゴロしとけて言われて、ガードマンやってて。そろそろ決めよーみたいなことを言われ出したのが、倉庫に決まる前です。その辺で倉庫決めてやめたときも、夜とか遊びに行ってるのとか、朝方帰って来たのが続けて見られたりすると言われます。そんなら貸さんぞみたいなことを言われましたからね。

<41cm・22歳・高卒・男性>

現在、親と別居して同棲中。(バンドのことをお父さん・お母さんは何も言わない?) そうですね。バイトをちゃんとやりながら…。高校のときののが効いているんでしょうね、きつく言えないというのが。いつも言われるのが、一緒に暮らして、お金を送ったり、そんなのは全くいらんから、自分らは自分らでやってくれという感じで言われました。私らも私らでやるし、迷惑をかけへんし迷惑をかけるなよという感じで。それでも別に仲が悪いわけではなくて、彼女と2人で遊びに行ったりもしたりしているので、仲はいいですけど何も言われな。働くんやったら働いたらいいし、働けへんなら働けへんでいい。何でもいいけど自分らでやれと言われたんです。

<51em・22歳・専門卒・男性>

(26cf) は、家計に余裕がないため進学できず、希望する職種は求人がないため、パート

で働いている。親は、「こんな時代だからしかたない」と納得せざるをえない。(43cm)は高卒後、4月から運送会社に正社員として入るが、朝6時から夜中近い勤務で、1月に退社を余儀なくされた。その後はいい仕事が見つかっていない。親は子どもの厳しい就職事情を寛容に受けとめるしかない状況にある。

(でも「勉強しなさい」とか言われた?) ぜんぜん言われたことはないですね。(そうするとお母さんは、今のあなたのことみて何か不安に思ってたっしょ?) どうなんですかね。やっぱ「正社員のところで働いてもらいたい」というのはあるみたいですけど。とりあえず仕事があれば、「今はいいかな」という感じですかね、こんな時代ですから。(何か決める時、お母さん達はその話したことについて、何か意見を言ってくれるの?) あんまり言わないですね。(「自分で考えればいいよ」という感じ。)

<26cf・20歳・高卒・女性>

薦めたりはあんまりしなかったですね。自分の主張を第一に考えてくれるんで。(あーそうね。じゃ親御さんと話ができるんだ。中学くらいの男の子って、親と喋らない子が多いじゃない。) あー結構、しょっちゅう喋ってましたね。はい。(中略) やっぱそこは「早く仕事しろ」と言う。(それは、はっきり言うのね。「いいかげん仕事探してるの」とか、どんな言い方するの?) そんなきつくはないですけど、はい、「早く探したほうがいいよ」とか。軽い感じで。(親も別に東京に行けとも言わない、残れとも言わない、好きなようにしていいよって?) 行けとも残れとも言わない。

<43cm・20歳・高卒・男性>

(16cf)は、卒業後のことを何も考えないまま、卒業して、そのままアルバイト続けて24歳になっている。「ゆっくり考えればいかなって。行きたいところも特になかった。…(進学して)そのままやめちゃってももったいないし、行くならもっと定まってから行った方がいいかなみたいな…」という意識だった。親はもともと進学を強く勧めてきたが本人はその気にならなかった。その後も親は毎年進学を勧め、資格をとることなどをアドバイスしているが、以前ほどは言わなくなっている。しかし本人は、25歳を前にして定職に就きたいと意欲をみせている。(14cm)も、高校卒業時点で、やりたいと思うものがなかった。数ヵ月後に親のついでで正社員になるが、仕事が合わずやめて8ヵ月になる。親は定職に就くことを強く勧めている。本人も、適当な仕事があれば、正社員になりたいと思っている。(16cf)も(14cm)も、学卒時には就職するだけの意識に達していなかった。親は定職に就いていて、経済的には安定しており、子どもが定職に就くことを終始期待し、必要なお金は出す気があり、助言もしている。このようなケースの場合、時間がかかっても、やがては定職に就きたいと自覚するようになっていく。

(お父さんが定年になる前に何とかしてくれと?) あ、言っていました。でも、それもだんだん言わなくなってきた。(のらりくらりしてると、何かあんまり言わなくなった?) うん。(あんまりうるさく言う?) そんな感じでは…。(正社員になろうと思ったとき、資格をとろうかと考えたことは?) 一回パソコンの何か資格を取っといたほうがいって親に言われて、思ったんですけど、でも実際何か学校で学ぶより、働いてやったほうがという。学習時間をやるんだったら、働いているとで覚えたほうが、身につくよう

な気がして。(お母さんは自分の娘に専門的な仕事についてほしいとかは?) そうですね。そういう看護系とかそういう系じゃなくても、資格は持つといたほうが良いよって、結構言われる。(パソコンの資格とか) お母さんが、「何か持つといたほうが良いから」って。(お母さんはやっぱり言う?) 「何が良いかな」って。(笑) これってというのがないので、そこまで何か、取りに行こうとかまで…。(今の状況について両親は?) 卒業して、3年ぐらいはずっと冬ぐらいになると「進学しな」って。短大とかって持ってくるんです。買って来たよって。「見ない、見ない」っていう感じなんですけど、最近は、「結婚しないの?」って。ずっと続けるなら続けなさいみたいな感じで。

<16cf・24歳・高卒・女性>

もう、勉強したいとは思わなかったです。(じゃ、働きたいと?) 遊んでいたいと思いました。(中略) かなり、うるさいです。(自動車整備工の専門学校はお金がかかると思うのだけど、もっと強い気持ちになったら行ける可能性はありますか?) はい、両親が出してくれるので。(ご両親は、「専門学校へ行ったら」というような話が出ることはありますか?) はい、「行きたいのなら出すから」と。(お父さんは厳しいですか?) 厳しい方ですね。(今は、「就職しろ」とかうるさくおっしゃいますか?) はい、「出ていけ」と。(同じ警察官になってほしいとか、こういう仕事に就いてほしいとか?) 雇用保険にちゃんと入っているようなところに就職しろと。(お母さんは具体的に何かおっしゃいますか?) とりあえず、バイトでも何でも「どこでもいいから働け」と言います。(お父さんは正社員になってほしいのね?) ですね。

<14cm・19歳・高卒・男性>

(30ef) は、映像関係の専門学校を卒業して、映像・音響関係の仕事をしてきたが、どれも不安定なアルバイトで、期待したような定職に就くことができないでいる。就職2年後に母親が病気で倒れたため、彼女が看護をしなければならず仕事をやめた。こうして長いブランクを経た後、再びアルバイトとして再開したところである。親は高学歴で、子どもの希望に対して理解はあり、辛抱強く見守っている。(35em) は、大学卒業後、ワーキングホリデーでニュージーランドに1年間行き、帰国後、アルバイトをしている。定職に就きたいという気持ちが強くあり、相談員に相談したり、情報を収集しているところである。どんな仕事でも良いという気持ちではなく、納得のいく仕事に就きたいという気持ちが強いのであるが、親は、基本的には寛大に見守っている。親の気持ちを姉が代弁しているということであろうか。

それで、結局1年近く。何も仕事しなくて。お母さん自体はそんなにずっと入院してたわけではないんですけど、やっぱりすごい心配で仕事はできなかったです。それでそろそろ大丈夫かなみたいな感じで、就職しなくちゃいけないんだけど、とりあえず最初からそんなうまくできるわけがないから、前行ってた、その人のバイトで、ちょうど友達から電話がかかってきて、人手が足りないんだけど、補助とってきてくれるかなと言われて、それじゃというので、それから現在に至っています。(今の状況について) お母さんはもうあきらめてるといふか、なんか変なことで頑固で、やっぱり負けたくないというのがありますので。お母さんはそれは言ってもむだでしょみたいな感じ。お父さんとはなから、だめだみたいなふうには思っていないんですけど、社員には早くなしてほしいとは思ってる。

<30ef・24歳・専門卒・女性>

(それでも、別に、居心地が悪いわけではない?) 上の姉にはめったに合わないんで。

親もそこまでは言わない。父が酔っぱらったときに、ちょっと。母もたまには、「早くしなさい」ぐらいは言うけど。(全体としては、理解のある家族っていう感じですね。)理解のある家庭ですね。(でも、心配していることはよくわかるから、伝わってきている?)そうですね。(お姉さんとかから、何か言われたい?)すごいですよ。特に上の姉がすごいきつい性格なんで、すごい言われますね。下の姉にも何かちくちくは言われるけれども。(そうでしょうね。ずっと職場に入ってやってらっしゃるだろうから、やっぱり強い。やり続けられないと。それに お姉さんが、働けというのですね?)もちろん、働けて。(正社員に早くなって、早く大人になれみたいな。)そうですね。

<35cm・25歳・大卒・男性>

5.3 日常生活における親の態度

学業や就職に対する親の態度をみてきたが、学業や就職以外の日常生活において、親は子どもにどのような態度をとっているだろうか。とくに、家庭において守るべきルールやしつけに関してどうだっただろうか。

5.3.1 無方針と放任

学業や就職においてみられた無関心や放任という態度は、当然、日常生活においてもみられるものである。(17cm)は、離婚・再婚した親の家と祖母の家を行き来してくらして、親とは感情の点でのコミュニケーションの点でも断絶に近い状態である。(6bf)は父母が不仲で、父親のことを嫌い会話がない。(4bf)は両親がパチンコに興じている。

(お父さんとお母さんは厳しいんですか?)全然。勝手にしろっていう感じです。(放任で?)はい。(幼い頃からしたいことをすればいいと言われてた?)全然ないです。

<17cm・19歳・定時制高校卒・男性>

(小学校のときとか、おうちで教えてくれたりとかそういうことはなかったですか?)うん。(しつけのことで何かよく言われたことがありますか?)しつけ?あまり言われたい。覚えていない。(しかられるようなことはしなかった?)してた。お父さんは全然言わない。(お母さんは何やったときに言われた?)万引き。万引きのときは、お父さんにも怒られた。(お父さんはお兄ちゃんには怒る?)ううん。(お母さんから将来の期待などの話はありますか?)ない。(小さい頃から?)覚えてない。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

お母さんは、学校の給食の仕事が終わったらすぐパチンコ行ったりとか。(お母さんもあんまり家にいなかった?)うん。帰っている形跡はほとんどない。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

(お母さんちゃんと支援して。支援ってへんだな、もうそれでいいやと?)ですね、ほんまに。全然何にも言わないんで。(元々、お母さんあんまりうるさくない?)そうですね、何も言わん人です。

<37cm・19歳・高卒・男性>

いっぽう、(43cm)は、親と十分に話ができる状態にあり、そのような関係を通して、自分の主張を親が尊重してくれていると感じている。

薦めたりはあんまりしなかったですね。自分の主張を第一に考えてくれるんで。(あーそうね。じゃ親御さんと話ができるんだ。中学くらいの男の子って、親と喋らない子が多いじゃない?) あー結構、しょっちゅう喋ってましたね。はい。(中略) やっぱりそこは「早く仕事しろ」って言う。(それは、はっきり言うのね。「いいかげん仕事探してるの」とか、どんな言い方するの?) そんなきつくはないですけど、はい、「早く探したほうがいいよ」とか。軽い感じで。(親も別に東京に行けとも言わない、残れとも言わない、好きなようにしていいよって?) 行けとも残れとも言わない。

<43cm・20歳・高卒・男性>

5.3.2 厳格な方針やルール

東北では、(19cf)のように、門限が決められている家庭が多い。(16cf)は、親が日常的に、勉強のことや行動に関して明確な指導をしていた例である。

厳しいです、かもしれない。あ、しつけの方はどうだかわかんないですけど、まあ、門限があったりとか、そういう意味では厳しいですけど。(門限があるの。あったじゃなくて、今もあるの?) あります。(門限って何時?) 8時です。(へえー。それちゃんと守ってるの?) まあ、ぴったりには帰れませんが、8時前後で帰ってます。

<19cf・18歳・高卒・女性>

(両親のしつけとか、高校の時は何と?) はい。学校はちゃんと行きなさいって、結構怒られたんです。めげなかった。(笑)「行くよ」って、行かなくて。(割と口出しする感じ?) うん。高校のときは結構うるさかった。(何をしたらいいのか迷っているとき、だれに相談してるの?) 相談とかしない。(自分で考える。(彼とか友達とか両親とか) あんまり相談とかしないで、自分で情報を集めて。

<16cf・24歳・高卒・女性>

5.4 小括

低学歴層の親は、子どもの学業・就職に対して無関心で、放任に近い状態がある。学校での業績に無関心であり、職業選択に関しても無頓着である。お金が入ればそれでよい、という感覚がある。親子の間に意思疎通のない家庭があり、時には一方的な叱責で事を解決しようとして、子どもの反発をかつている。これらの家庭は、子どもを職業へといざなうという点で、子どもの社会化機能を果たしているとはいえない。いっぽう、首都圏の高学歴層においては、大学教育を受けることが自明の前提となっている。教育に関する親の関心と期待は、前述の低学歴層とは対照的である。しかし、教育と比較すると、職業に関して親が日頃子どもに示してきたことは少なく、「正社員になった方がいい」などの一般的助言に留まっている。なかには、親の不仲、離婚、病気その他が生涯となって、学校から仕事へのスムーズな移行ができないケースもある。

6. 親子の会話・行動・情緒的絆

ここでは、親子がどのような関係にあるのかを会話・共有時間・情緒的絆などの側面からみていく。

6.1 親子の会話・食事・同伴行動

6.1.1 意思疎通のない親子関係

関西の場合、先にみたとおり、親子の経済関係でみると、対象者の多くは早期に親から経済的に自立する傾向がみられる。相互作用の点では、家族間のコミュニケーションがない家庭、とくに父親との断絶が目立つ。

(3bm) は母子家庭であるが、親子・きょうだいの間に会話はほとんどないという。学校時代から放任の状態、高校の三者面談に母親が来たこともなかった。(39cf) の父親は、子どもに対して言葉をかけることがほとんどない。それでも、高卒後就職した会社が自分には合わなくてやめたいと悩んでいた時、父親から、「なんかすごい泣けるメールがきてしまって」、それははげましのメールだった。めったに言葉をかわさない父子だが、このことは印象的な出来事で、今でも思い出すと泣けてくるという。(4bf) は、両親が仕事の後はパチンコ屋にいりびたりで、放置に近い状態だった。

(お母さんとは話します?) せえへん。ずっと自分の部屋におるから。(弟とは話します?) 別の部屋。だから、弟ともしゃべれへん。だから、弟が学校行くときはもう寝てるし、帰ってくるころにはバイト行ってるし、帰ってきたら、大体寝てるし。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

(お父さんとは) 仲良くないです。ほとんどしゃべらないですね。(嫌いだから?) もともとちっちゃい頃からそんなにしゃべらなかつたですけどね。なんか大体同じ部屋に、部屋がこうあって、真ん中がふすまなんです。で、こっちにもテレビあるし、こっちにもテレビあって、もう、いっしょに見るとか絶対ないし。だからこっちとこっちで、同じテレビがかかって、別々で見てる感じ。電気代もつたいないけど、でも、一緒に見るとかあり得へん。(なぜ?) えー? あり得へん。なんかもう自然と。なんかちよつとした他人みたいな感じ。なんかちっちゃい頃から。(お母さんとは?) いっしょになんかスーパーとか行ったりはするけど、基本的にはあんまりしゃべらんかな。

<39cf・19歳・高卒・女性>

(お父さんとは、あまりかまってくれなかった?) うん。あんまなかった。寝るのが一緒なくらいかな。だから、〇〇から帰って、家におることは全然なかったかな。(お父さんが?) いや、お父さんは仕事で遅くなるけど、仕事終わってから家に一度帰ってくるのがなくてそのまま直接パチンコいったり、けっこう飲みに行ったりとか。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

6.1.2 意思疎通のある親子関係

(1am) (12df) (19cf) (14cm) は、親子の関係が良好で、コミュニケーションが十分にある例である。この関係は、ずっと続いてきたものとばかりはいえない。例えば、(1am) の場合、まったく言葉をかわさない時期もあったが、ある年齢に達してから、素直に話のできる関係に転じている。

(中学ぐらいの暮らしぶりとは、卒業してバンドをやり始めて?) もう全然違いますね。親子の会話がものすごいできていますから、今。

<1am・24歳・中卒・男性>

(今も家族で食卓囲むってことが多い?) そうですね。(お炊事とかは?) 最近私ですね。(弟さんは反抗期とかではないですか。一緒に食卓に座って?) 普通ですよ。ただ御飯に関してはうるさいですね。「水多過ぎ。ぐちゃぐちゃ」。めちゃうるさい。「これ味薄い。塩」。薄味なんですよ。文句ばかり。

<12df・20歳・専門中退・女性>

家にいるときは、あんまり1人でいる時間ってないんですよ。1人でいるよりも、家にいれば誰かいるんで、お母さんといたり、ばあちゃんとしゃべったり。そっちのほうが多いですよ。(お姉さんとかと話すことはありますか?) あります。けっこうしゃべります。(きょうだいは割と?) 仲いいです。

<19cf・18歳・高卒・女性>

(家族とはよく喋りますか?) はい、喋ります。

<14cm・19歳・高卒・男性>

6.2 親子の対立・葛藤

(4bf)(28cf)(22cf)の例は、放任・無関心と、強硬な抑圧の入り混じった親の態度を示している。親子間に言葉による話し合いがない状態で、ある出来事(たとえば夜遊び)に対する一方的な叱責と、それに対する子どもの反発という関係である。

(そういう風な家出したり、友達と泊めてもらったりってことをお父さんやお母さんはなんか怒られたりとかそういうのはなかったかな? それとももう好きにしてって?) ごっつい怒られたかな。ごっつい怒られて、その怒られたのがむかついて出て行く。(たまに帰ってきたらまた怒られてってそういう?) そう。最終的には親もあきらめた。言っても一緒やわって。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

門限とかめっちゃ厳しかったっすよ。破りまくっていましたが。めちゃめちゃ怒られましたね。何言っても怒られるんで。ひたすら終わるまでじっと、すみませんみたいな感じでしたね。

<28cf・19歳・高卒・女性>

ぼこぼこにしばかれました。その繰り返しで。しばかれるから出て行く、また引きずり戻される、またしばかれる、の。お父さんは、そのあんまり一緒にいる時間がないから、ほんでそんなにしゃべらへんかったから中学の時には、どっちかという。今となってはしゃべるけど。だから、もう、そないに頭ごなしに、ま、怒ってけえへんし。理由とかもお父さんは、聞いてくれるけど、お母さんは、あのなって言うた時点で、もう、手飛んできてて…(笑)。人の話しいっつも聞いてくれへんから、お母さん怖い。

<22cf・19歳・高卒・女性>

(10df)は、弁護士になる夢をもって法学部に入ったが、勉強しない大学の雰囲気嫌気がさして退学し、心のバランスを崩して現在に至っている。下記のインタビューからは、多少過保護ぎみとはいえ、親の心労が読み取れる。

(20歳前後で大学辞めて、心のバランス崩して?) そうですね。いろんな所に行って、人と話して、一応、女の子だから危ないんです。親が心配するんです、変な男の人につけられたとか、実際にヤクザの人に目をつけられたりとか、別にだれかの所に泊まって

いるとかじゃなくて、目をつけられたとか、親はすごく心配だったんです。結構大変でしたね、何事もなくてよかったんです。家出もしましたね。1日で見つかったんです。格好悪いって言われました。「20歳過ぎて、家出して1日で帰って来ないでよ」って。結局、いい子で来ちゃっているから、たばこくださいとか言って一番軽いのをかうんですよ。で、家出するんです。で、保護されて。

(大学は辞めず、そのまま籍だけ置いておくという事も?) 考えたんですけど、うちの場合、非情ですから、「お金を払わないよ、行かないんだったら」。そんなことはしてくれまし、習い事もさせてくれたんですが。(英語教室、専門学校も行き、海外に行く話もなくはなくて。しかし)「歳いくつ?」とか、資金の面とかでも大学に行っていないから行かせてあげようという気持ちがあったらしいんですけど。(両親のほうから?) でも、体の方が心配で。変なムシがついたら困るとか。

<10df・28歳・大学中退・女性>

(8dm) は、大学工学部に進学するが勉強についていけず、中退した。その後専門学校へ入学するまでの期間アルバイトをするが、「面倒な人間関係を避けてきた」ためか、いろいろと失敗を重ね、大学進学を望んでいた父親との間に葛藤が生じる。(21cm) は家庭内不和と父親の死亡、母親の精神病、という環境のなかで、自分自身うつ状態になりひきこもりを経験する。

何ていい人なんだろう、見ず知らずの他人のことまで話しかけてくれてと思って泣きながら聞いていて、家に帰って、父がいたから、「こんなこと言ってくれる人がいるんだよ」って言ったら、「何だ人のうちのことも知らずに」って今度は逆に切れる、そこでせめて、「我慢が足りないとか、もうちょっとしっかりやれと言われるならいいけど、うちのことを知らないくせに」とかっていうことになって。「そんなにいろいろよく言ってくれた人がいたのに」と言ったんだけど。大学でも人を怒らせて、また人…。

<8dm・24歳・大学中退・男性>

中学の1年生というのは、ちょうど親に一番甘えたい時期なんだそうですね。それで、僕は僕で親を失ったこと以前に、どちらかという、精神病に、例えると、うつ病がついちゃったかもしれません。仮にそうだったとして、要因として挙げられるのは、父親を失ったこと以前に、父、母、長男、次男、三男の本人、僕を含めた家庭内不和が大きく影を落としていたと思われまね。お恥ずかしいながら、父と母は大変仲が悪く、僕が生まれる前から、父が帰宅をすると決まって言い合いをしていて、既に離婚の話も出ていたんですよ、僕が生まれる前に。(中略) 僕のような家族構成というのは極端な例じゃないですか、あるかもしれないんです、あんまりいいほうじゃなくて。悲嘆に暮れる日があって、これとって勉強に精進したわけでもなく、部活もやらないで、学校が終わってすぐに家に帰るような、帰宅部と言うんですか、というのをやっていて、家へ帰っても、今で言うところの引きこもり君になっていたんです。今の引きこもり君というのはパソコンがあるから外部との連絡をとれるけれども、部屋でほんとうに1人でいて、親とも話さないじゃないですか、という感じなんだけど。(今はもう親御さん達の家とは殆ど交流がないという事ですか?) あんましないですね。(向こうもあまりこちらに電話してくるとか、関心を持っていないみたいですか?) 俺が妨げたというのも多少なくはないんですけども。(お兄さんとお母さんが一緒についてくると。そういう意味じゃお母さんの事はお兄さんに任せておけばいいし、という感じですか?) 人の家庭の事なんてそういう風に見えますか。言えない事の方が多いんで、そう思っただければ。

<21cm・31歳・高卒・男性>

(35em) (10df) の例は、経済的にも家族関係のうえでも恵まれた環境にあったことを表している。

ちっちゃいころからおばあちゃん子だったんですよ。両親が共働きで、うち、お花屋さんを両親がやっているんですけど、もうとにかく全然、僕はおばあちゃんに任せっきりみたいな感じで、保育園からもうずっとおばあちゃん子だって、だから塾とか行ってる時も、おばあちゃんがくれたご飯を食べて行ってみたいな感じで。もう親とはあんまり会わないぐらい。(中略) 優しかったですね。しかも、何ていうのか、初めての長男だったし、内孫って言うのかな——だったから、すごいかわいがられて育ってきましたね。おばあちゃんと大体。

<35em・25歳・大卒・男性>

兄が2人で、私なので、末っ子なので。(可愛がられて?) そうですね、蝶よ花よって、自分で言うなって感じ。

<10df・28歳・大学中退・女性>

6.3 親との同居と離家

定職に就いていない対象者のほとんどは、親と同居している。その状態を彼ら・彼女らはどのように感じているだろうか。親の家から出て独立したいという意識はないだろうか。

6.3.1 同居のままでよい

(45cm) (3bm) は、お金がかかるから今は無理だと考えている。しかし、離家したいという強い願望があるわけではない。年齢に着目すると、24歳の(45cm) はひとり暮らしに強いあこがれを持っていたが、今ではそれほどでもなくなっている。いっぽう、17歳の(3bm) は今の状態に違和感をもってはいない。家を出るにしてもずっと先にことと考えている。

ひとり暮らししたいのは、若い頃はしょっちゅう。今はもう家でいいかなって。(どの辺が?) 何かと便利です。(ひとり暮らししたら家賃とかは?) 要らないです。してみたいのもありますよ。お金もらってたらできるかもわからないけど、結構しんどいかも。(金をたんまり稼ぐようになったらひとり暮らしでも?) やっぱりお金でしょう。

<45cm・24歳・高卒・男性>

ひとり暮らししたらお金がかかるから、ある程度稼いで、ひとり暮らしができるぐらいの金がたまるまでは家で。(お金が入るようになったら出ようという感じ?) 出ようかなとは思いますが、別にそんな焦りはせえへん。

<3bm・17歳・高校中退・男性>

6.3.2 お金ができれば離家したい

(25cf) (14cm) は、離家することを強く望んでいる。しかしお金がないので今は無理だと感じている。(25cf) はすでに、家を出るためにお金を貯めている。

今は無い。いずれ〇〇県から出たいっていう感じ。地元から出たいです。(これは一人暮らしをしたいっていうこと?) はい。(これはいずれっていうのは具体的にいつごろ

いに出たいってあるのかな?) やっぱりお金がないとだめなんで貯めてから。(その頃別に結婚してたりとかは考えてない?) 思わない。(あんまり考えたことない。将来こういう家庭をもちたいというイメージはない?) ないです。

<25cf・18歳・高卒・女性>

(一人暮らしはしたいですか?) はい。(一人暮らしのイメージはどんな感じですか?) けっこう自由で好きな事ができる。(14cmさんには家を出たい理由があるのですか?) 理由はないけど、一人暮らしをしたいです。(今は、自由ではないという感覚があるのですか?) それはないけど、家に誰もいない方がいいかなと。(孤独が好きなの?) はい。家で親父とかと居たくないの。

<14cm・19歳・高卒・男性>

6.3.3 ずっと親の近くにいたい

(12df) (46cf) は母子家庭、(1am) は再婚家庭である。親の将来を案じ、自分の責任を自覚して、近くにいたいと感じている。

(将来) 私的には、自分の親と住みたいんですよ。お母さんが一人やから。お母さんと住んで。(弟さんもお姉さんも、親と一緒に住もうと考えて?) 多分ないと思いますよ。弟は絶対ないですね。

<12df・20歳・専門中退・女性>

(住むんだったら近く、それとも遠く?) 近くですね。親からあまり遠く離れたくないというのもありますね、まだこの世にいる限りは。

<1am・24歳・中卒・男性>

一人暮らししたいけど、お母さんあんまり若くないからあんまり放つとかれへんから。不健康とかじゃないけど、やっぱりしんどいかなあと思って。

<46cf・19歳・高卒・女性>

6.4 親に対する感情

家庭環境に恵まれず、親の放任や理不尽を経験してきた(23cm)は、親を否定する気持ちをもっている。いっぽう、(35em) (2am)は、ジグザグな生き方を寛大に許してくれ、金銭的にも援助をしてくれた親に対する感謝とともに、親の将来に責任を感じている。

(理想の大人は?) 身近…、そうですね。いてなかったですね。おやじのようにはならんところとは思ってました。(何で?) さっきも言いましたが、借金、かなり多かったですよ。(何の借金?) わかんないです。おやじのようにはなりたくない。(お父さんの職業が嫌?) そういふのはないですけど。ただ、おやじの性格的に、あまり尊敬できなかったんです。中途半端なんですよ。そういう面においては、兄のほうが信用というか、尊敬してたんですね、おやじよりは。

<23cm・21歳・高卒・男性>

とにかくお金がなかったから、今もないし、最初の職場も家から通える範囲でと考えるぐらい家にいようと思ってたから、どうしてもやりたい仕事が遠いんだったら。ただ、すごい経済的とか、家にいるのは楽なんですけど、やっぱり共働きだし、家のことかも子供の僕たちがやらなきゃいけないところもいっぱいあるし、まるまる1年いなかったんで、ちょっと感謝というか、親に恩返ししたいとか。(ご両親は、どう考えている

んでしょうかね。今、多分、すごく心配してるでしょう。で、何とか正社員になってほしいと思っているのかな?)今はなかったですね。すごいやっぱり、1年間家を出て、ニュージーランド行っていると、すごい親の愛は多分わかったし、すごい感謝はしてるし、そのときに、お金のありがたみとか、友達の大切さとか、すごいニュージーランドで感じたから、やっぱり帰ってきたから、全然親と接する態度も変わったと思うし、今は就職の問題がなければ、うまくいっていると思うし、そこまですごい家にいたくないと思うほど言われるわけでもないしって感じで。

<35em・25歳・大卒・男性>

(今後のことは)逆に養わなければいけない立場になりそうな気はしていますし、年金生活にそのうちなっちゃうんでしょうし。さんざん世話になっていますから、何とかしたいですね。でも、すごく成功して、収入が多い分にはいいんですけど、親は養わなければいけないんでしょね。多分、姉が面倒を見ないと思うので。見ないというか、向こうの結婚した相手のほうの親の面倒も見なければいけなくなるので、うちの父親、母親は見なきゃいけないと思っています。

<2am・22歳・中卒・男性>

6.5 早すぎる妊娠・出産

早すぎる妊娠・出産を経験した3人は、いずれも家庭環境に問題をもっている。(4bf)は両親がパチンコ狂で「あんまし相手にされた記憶もないし」という。(22cf)は、高校時代に怠学傾向のグループと接触して、「急にぷつっていったんです」という状態になった。彼女の両親も若い頃、学校では相当の「悪」で、警察に補導されたこともある。(46cf)は小さい頃親が離婚して母子家庭である。学校時代、勉強はまったく苦手であった。高校入学前から、母親にアルバイトをしてほしいといわれている。母親は、勉強に関してもしつけに関しても「何にもいわない人なんですよ。決めるときとかでも好きにしいやっけていつも」(ほんなら騷とかでもそんなにうるさく言わはる人ではないん?)「けっこうほっとかれますね」という人である。彼女達は、(4bf)の表現でいえば、「まわりの子らが産んでいるから産んでみたいみたいなノリ」の感覚で妊娠・出産している。

(そういう風な家出したり、友達とこ泊めてもらったりってことをお父さんやお母さんはなんか怒られたりとかそういうのはなかったかな?それとももう好きにしてって?)ごっつい怒られたかな。ごっつい怒られて、その怒られたのがむかついて出て行く。(たまに帰ってきたらまた怒られてってそういう?)そう。最終的には親もあきらめた。言っても一緒やわって。(中略)16のときかな。友達の紹介で付き合った子がおって、ほんでその付き合った子の子どもをお腹にはらんでしまっ、まあ産む前に別れたんやけど。んで産んだと。17歳の5月くらいかなあ。5月に子ども産んだと。だから子どもも別になんていうんかなあ、ノリで産んだみたいない感じがあって。まわりの子らが産んでるから産みたいみたいないノリがあって。実際産んでみたらなんで産んだんやろとか。こいつがおるから遊びに行かれへんとかになって。そんなんあって家出とか。ま、3時間に一回とか泣くやんか子どもって。

<4bf・20歳・高校中退・女性>

(卒業して、予備校は途中で止めて、ずっと)アルバイト。(手をけがしてやめて)それと、結婚するていう話が出てたんで、(大笑い)子ども、子どもができて、できちゃったになる、て言っけて。で、話も全部進んで、先月先々月進んで、うまい具合に行きそうな時に手ががして。で、ま、そのレントゲンとかバシバシとらなあかんし、仕

事もせなあかんでなって…今回はまだ若いんやし、ていうんで、お腹の子には悪いんやけど諦めなさい、て言われて…。で、子どもおろして、ま、結婚の話は延びてしまった、と。(笑い)。いろいろあるので…。

<22cf・19歳・高卒・女性>

(アルバイトしていた期間は?) 2ヵ月くらいかな。子供を墮ろして、それで手術するのに、辞めなしゃないから。立ち仕事はしたらあかんって。(お母さんも?) 知ってる。びっくりしてた。(子どもが出来た時の彼氏は?) 5つ上の人。お母さんつながり。お母さんがパートしてたところのバイトの人。飲み会につれていかれて、そのときに知り合いになった。(すぐ付き合いだした?) けっこうすぐ。

<46cf・19歳・高卒・女性>

6.6 小括

意思疎通のある親子関係とそうでない親子関係がある。関西の低所得家庭には、意思疎通のない親子関係が多くみられる。早すぎる妊娠や出産もそれと密接な関係がある。首都圏においても、家族内の複雑な関係の重荷を背負った例がある。それらの重荷は、職業選択や職場への定着において、何らかの障害となっている。

離家に関しては、不安定な就業状態からいって、親の家を出ることは経済的には無理というのが実情である。離家に関する願望は、必ずしも強いとはいえない。現状では無理と諦めているという面もあるが、親と同居することに特別の問題があるわけではないというのも理由となっている。

7. 今後の予定と将来イメージ

将来の暮らしをどのようにイメージし、どのような予定をたてているのだろうか。とくに、仕事に関するメドと、結婚して家庭をもつことに関するメドをみていく。

7.1 これからの予定

ニュージーランドのワーキングホリディから帰ってきた(35em)は、就職したいと真剣に考えている。25歳という自分の年齢を強く意識しており、「ふらふらしているのはまずいかな」という感覚をもっている。22歳の(2am)は、25歳には正社員として安定したいと望み、それまでにアパレル産業での経験を積んでおきたいと考えている。いっぽう、25歳の(50em)は、複雑な家庭事情のなかで、昨年父母があいつで倒れ、母親は死亡した。それらの仕事がすべて彼の肩にかぶさったまま、25歳を迎えて、心身ともに憔悴し先はみえない。

まず、親を安心させてあげたいというのものもあるし、でもちょっと考えて、浪人までさせてもらって大学行かせてもらって、その後、パチンコ屋でバイトして1年間海外まで行かせてもらって、帰ってきてまたバイトって、すごい親に悪い感じがするし、何か親を安心させてあげたいというのものもあるし、あとは、何か社会的な信用っていうか、24まではそこまでは考えてなくて、25になってから何か突然、ふらふらしてるのは、まずいかなって。責任っていうか信用っていうか。

<35em・25歳・大卒・男性>

3年後は、経済的に自立していたいですね。正社員、できればどこかの社員待遇で働いて、月給 20 万円程度でいいので、そういうところで働いて、ひとり暮らしとかして、仕事していない暇な時間にスキルアップのために勉強していたいと思いますね。

<2am・22歳・中卒・男性>

(25歳くらいの将来展望は?) 25 ですか。自分のビジョンとしてはですね、アパレル関係って安定した職業ではないじゃないですか。不況とかにめっちゃ左右されますし。だから、25 まではアパレルを続けたいんですよ。自分の好きな仕事をね。25 歳超えたら、もうそろそろ結婚とか考えてるんで、安定した職業につきたいっていうふうには思ってるんです。それがどんな形で、どんな仕事であれ。

<23cm・21歳・高卒・男性>

(もうほんとに、今までも命をかけてきたんだけど、今度、ちょっと命かけ過ぎちゃって、今度、自分の番になっちゃったから。そうね、おじいさんと母親は、自分の身がわりになったって感じかな?) そんな気持ちがあるんだ。で、今度来るんだとしたら、今度、自分だから、悔いのないように。母親の影響で、ちょっと寿命が大体どれぐらいかわかったし。(自分の?) うん。自分もきつとがんになる。で、多分、50 幾つぐらいしか生きれない。(そう思ってるの?) 母親がそれで死んだからよ。(お母さんと同じような道をたどりそうな気がしてるの?) うん。で、男性だから、多分それはもっと早く来る。

<50em・25歳・専門卒・男性>

7.2 将来のイメージ

将来の生活レベルに関しては期待水準は決して高くない。(24cf) は、「一戸建てとかにはこだわらない」と表現し、(19cf) は「普通でいい」「お金がないとか言わなくてすむくらい」と言い、(2am) は、「お金があればいいとは思わなくて、とにかく生活を第一にして、たまにちょっとおいしいものをたべれたりとか」と言う。

一戸建てとかはあまりこだわらないけど、緑が欲しいとかガーデニングとか、そういう雑誌とかが家にあってそういうのいいな。

<24cf・19歳・高卒・女性>

(19cf さんの的には将来、今よりはリッチな生活をしたいたか?) もちろん思います。そりゃ、リッチにこしたことはないだろうけど。いまは、まあ、いますから、あんまりそんな言えないですけど。(どの程度の生活をしたいたか?) 普通でいいですね。(あんまりお金がないとか言わなくて済むくらい?) はい。(2人で働けば大丈夫じゃない?) たぶん、何とか。

<19cf・18歳・高卒・女性>

結婚ですか。経済的にそれが可能ならしたいとは思いますが…。私の親が 38 と 36 で年取ってた子供なので、遅れるといろいろ子供に対してコミュニケーションとか元気がなくなったり、あとは体力的につらいんだろうと思ったので、子供を産むんだたら少なくとも 20 代のうちには産みたいなど。それはそうです。年にとって定年退職するころに、大学がどうか就職活動でお金が要るとかなったら、とてもじゃないけど大変ですから。早いうちにつくっておかないと、子供のほうも大変になるから。(中略) 稼ぎが多い分にはすごくいいですけども、お金さえあればいいとは思わなくて、とにかく生活を第一にして、たまにちょっとおいしいものを食べれたりとか、いいものを買ったりとか、そういったことができればいいかなと。

<2am・22歳・中卒・男性>

7.3 結婚に対するイメージ

男性の場合は、現状では結婚はできないと考えている。結婚志向が強いというわけではないが、もしできれば「自分はよくやった」と評価できるだろうという認識がある。結婚した場合は、共働きする以外はありえないという認識。一方女性の方は、結婚する場合は、相手の職種は問わないが不安定なフリーターではダメだという認識がある。専業主婦志向もあるが、それは職業に対して展望をもてないからである。しかし専業主婦の実現可能性は低い。

7.3.1 女性の場合

高卒以下の女性たちは、男性フリーターを結婚対象としては全面的に否定している。不安定で生活できないというのが理由である。暮していける収入があることが大切であり、職種は何でもよいというのが、彼女達の考え方の特徴である。その点で、男性観はきわめて現実的である。いっぽう、専業主婦になりたいと明確に言っているのは(39cf)だけである。ただし、結婚しても働きたいという場合でも、自己実現としての職業という意識はみられない。仕事自体にこだわりをみせているのは、映像関係の仕事をしている(30ef)だけである。

ガーデニングができる家がいい。(専業主婦になってたりとかそういうのいい?) 子供は欲しいけど、ある程度大きくなったら、仕事はしたい。(フリーターとか無職の人と結婚しようと思う?) 無理。無理だと思う。(どうして?) 生活していけない。(24cfさんが高給取りになってて食べさせて上げるっていうこともできると思うけど) 高給取り。ないね。(彼がブータローみたいだったら。そんなのは彼にしない?) 無理。

<24cf・19歳・高卒・女性>

(結婚したら、仕事はどうしたい?) 続けたいですね、続けられるなら。(子供が生まれたら?) たら、やめる。(育児休暇とか?) まだ考えたことがない。

<16cf・24歳・高卒・女性>

(専業主婦で豊かな暮らしをさせてくれる男はなかなかいないと思うよ。) 別に豊かじゃなくてもいい。人並みでいい。結婚したら町内に住みたいぐらいの勢いやねんか。お父さんはおるし、おばあちゃんも1人で住んでいるし。だから、別に町内でもいい。一軒家に住みたいとか、オートロックのマンションに住みたいとかはない。家があればいい。(団地でいいわけだ?) うん、別に全然。

<18cf・20歳・高卒・女性>

(結婚相手が)フリーターは無理。フリーターは、やで。無理。安定していないから。別に社員とかじゃなくても、普通にとびとか鉄筋の仕事をしている人でもいいねんけど、男でフリーターというのはいやや。ちゃんとしてよと思う。

<18cf・20歳・高卒・女性>

(結婚願望は強い?) あつても、その、あんまり働くこととか言ったら好きじゃないじゃないですか。専業主婦はいいなあとか思いますけどね。(結婚相手がフリーターなら?) うーん、それなりにその、フリーターでもそれなりに稼ぎがあったら、全然。(問題なし?) うん。

<39cf・19歳・高卒・女性>

(結婚については?) いや一何も考えてないです。(希望は?) あまり考えてないかも

しれない、です。(仕事やめて専業主婦とか?) うーん、全然そんな、考えないです。(結婚しても仕事続けるとか?) あまりそういうことは考えないんで、全然わからないです。うーん、今後のことが。(結婚はしたい?) うーん、別に、いやーあんまり結婚したいとか、したいなーとか、思わないです。思わない。ほんとに何も考えてない。

<38cf・18歳・高卒・女性>

(結婚相手の仕事は?) こだわりはないですけど、やっぱりでも、子どもが出来てきたりしたら、フリーターやったら、決まった定額のお金が入ってけえへんわけで、そんな楽じゃないでしょ。(笑) それに何時いらんわて言われるかわからないでしょ。フリーターやったら。もう明日から来なくていいよ、ていう。

<22cf・19歳・高卒・女性>

(アルバイトで食べてる人にすごく素敵な人が現れた。どうする?) お金あるん? (月、なんぼ以上稼いでくる人ならいいの?) 30万。(仕事の種類とか希望はないですね?) うん(学歴とかは?) なんでもいい。フリーターは嫌。(正社員やったら、何の仕事しても別に平気?) うん。(建築現場で働いている人でもOK?) 土方とか、そういう系が好き。やってる人が。たくましい。医者嫌。なんか、嫌。

<6bf・20歳・定時制高校中退・女性>

結婚は早いうちにしたいという気はあります。(将来結婚したら専業主婦になりたい?) いや、それは全然思ってないですけど。(まあ、パート・正社員にこだわらず働いていきたい?) はい。(専業主婦になりたいって気は?) ないです。(自分で食べていかなくてはと、そこまで思っていない?) ないですね。だからぜんぜん焦りとかもないですね。

<26cf・20歳・高卒・女性>

(自分としては結婚は?) そうですね。とりあえずちょっとした就職をしているわけじゃないので、仕事をちゃんとしてみたいというのがあります。そっちのほうが強いですね。(中略) 子供は今、かわいいと思うんですけど、欲しいとは思わないですね。とりあえずもうちょっと自分で遊びたいというか。もうちょっと子供の前に自分にお金を使いたい気持ちが強いです。自分のためにお金を使って、どっか旅行に行ったりとか、そういうことはしたい。車が欲しいとか。そういうのを一応した後に子供にお金をかけたといったらあれですけど、そういうふうには考えています。(5年後、3年後は?) 仕事してたいです。5年後は30になるんですけど。結婚はできてたらいいなと思いますけど、それなりに、仕事はどうだかわからないけど、仕事をやめたとしても、好きなことに関して趣味として何かやってたいというのがありますね。(仕事) 続けてたいんですけど、多分。もし家庭を持ってたとしたら、両立はできないような気がする。(業界の人で、女性で両立している人) なんか見ても、いないらしい。やっぱり時間も。ずっとそれにといいの、思わないです。最終的には自分の趣味ぐらいですね。(結婚しないでいきたいということでもない?) そうですね。

<30ef・24歳・技術専門卒・女性>

7.3.2 男性の場合

20歳台前半で、フリーターである男性にとって、結婚は夢のまた夢という状態である。フリーターである限り、結婚して家庭をもつことは無理という認識をもっている。とくに高卒男性は結婚の可能性に関して自己評価が低い。

(結婚願望は) ないですね。ほんまないですね。(何歳までにはとか?) 全くないですね。できたら、すげえなおれってなりますね。(結婚するとなったら、自分はアルバイトということとは?) はないですね。もし結婚してくれって言われても、自信がない

んで無理って言います。自信がないことはできないですから。

<41cm・22歳・高卒・男性>

(彼女から) 言われますね。結婚してくれよって。彼女は年上で 27 なので。そうですね、厳しいです。だから、何年間と見えへんように。そうそう、過ぎたから。またそれを彼女に言われるんですよ。あと何年やるのって。1 回うそをついてしまっているわけじゃないですか、3 年と見えて。だから、いや、わからへんって。でも結婚するかは別やと。

<51cm・22歳・専門卒・男性>

結婚は、ぶっちゃけ早くしたいですね。今は絶対できないですけど。子どもがすごい欲しいんです。かわいいじゃないですか。(結婚相手に望むことは?) 僕は、結婚した相手がやりたいことをやってほしいですね。そんなストレスとか、自分が言ったことに対して持ってほしくない。(結婚は、今は?) 無理ですね。確実に無理。社員になって 1 年とかでも多分無理ですね。貯金がないじゃないですか。養っていけるっていう自信が持ててからですね。

<23cm・21歳・高卒・男性>

(45cm) も、結婚に懐疑的である。フリーターの状態では無理であるし、たとえ正社員になっても結婚による経済的重圧の方を感じている。男が家計を支えるという結婚像は完全に否定している。

(結婚について) 今、彼女はいてないですけど、彼女いてる人でも、結婚とか話出るけどさって、考えたら今の給料で無理やとか言っていて、やっていけるのかなって。無理やろって。(正社員で働いてても?) そうそう。よう考えてみーや言われて。おれ 20 何万もらってるやんとかって。そこからやで、家賃払ってやで何やかんや支払って、残らへんやんみたいな。まだ遊びたいというのものもあるから違いますかね。これで遊ぶ金はないわけやんみたいな。結婚していいことはないやろかみたいな。何で結婚すんねやろとかいう話もありますよ。何をもって結婚すんねんの、みずからしんどい思いをするのにみたいな。(結婚相手に求めるものは?) その状況によるの違いますか。2 人でおって、たまたま結婚したけど、まだ自分がやりたいことがあったら、お互い働いて、倍の収入になるわけですから、そんなら 2 人でいろいろ遊びに行ったりとか…。その中でも、もういいかないうときに子供ができたら…。(結婚後の家事育児について) その間にある程度のお金をためてたら。男は月 100 万ぐらい稼いでたら別に働かなくてもいいじゃないですか。夢のような世界でしょう。この少ない給料の中からどう生活するかという。どうなるかもわからないでしょう。でっかい会社にいてもつぶれるわけやし。

<45cm・24歳・高卒・男性>

いっぽう、(35cm) は、結婚はしたいがそれよりも前に、前回のニュージーランド行きとは違って、帰国後のこともしっかり計画して海外へ行きたいと考えている。(8dm) のように、結婚はしたいとは思いますが絶対しなければならないとは思っていない者もいる。

すごい結婚はしたいし、子供も欲しいと思うんですけど、やりたいこともまだ…。もう一回海外行きたいと思って、それができるかどうかはわからないんですけど、やっぱり次、海外に行くんだったら、今回みたいなちょっとじゃないけど、何か帰ってきてからのことは何も考えずに、就職が何だろうみたいな感じで行っちゃったらどうしようもないし、お金をためるんだったら、バイトでもたまるかもしれないけど、もし海外に行っ

て帰ってきてても、何かちゃんとできるというふうになったら、もう一回行きたいなっていうのはある。

<35em・25歳・大卒・男性>

(何年かたつと結婚する人も出てくると思うんですけど、結婚したいとかいう気持ちはありますか、家庭を持ちたいとか?) そうですね、できればしたいですけど。(子供もいれたいほうが…?) これから結婚しない人のほうが増えて、その流れが、そっちに乗っかる可能性は今の段階では。

<8dm・24歳・大学中退・男性>

7.4 小括

中・高卒フリーター層の将来の暮らしに関する夢は、「ふつうにくらしていければいい」とささやかである。結婚に対する女性の見通しは現実的で、フリーターの男性を受け入れようとはしない。重要なのは安定した収入であり、職種はいとわない。

大卒フリーター層の場合も、将来の夢はやはりささやかといえるものである。ただ、低学歴層と異なるのは、職業を通じた自己実現へのこだわりがあることである。25歳くらいをメドに、親に対する感謝と責任を認識するのは、それだけ親に多くのことをしてもらってきたことを自覚しているからであろう。

8. まとめ

中・高卒フリーター層と大卒フリーター層との間には違いがあるので、それぞれについて分析からみえるものを整理しておく。

8.1 中・高卒フリーター層の家族・親族状況の特徴

若者にみられる一般的な傾向としては、成人期への移行のプロセスが長期化し、親への依存の時期が長くなっている。しかし、この調査の対象者のうちの中卒・高校中退、高卒者をみる限り、高学歴者と同じような意味で親への依存期が長期化しているとは必ずしもいえない。高校在学時にすでに親からこづかいをもらう段階を終了し、自分のアルバイト収入でまかなう者が少なくない。わずかとはいえ家計にお金を入れたり、食べ物など基本的なものの購入を自力でやらざるをえない者すらいる。ひとたびアルバイトが始まると、親からの経済的自立の一步が始まり、後戻りすることはなくなる。彼らは、離婚と再婚、病気、死別、借金、貧困などがかかえた複雑な家庭環境のなかでくらししていることからして、経済的に自立できること(=親に頼らなくてよくなること)は、自分の尊厳を守り、悪条件から見を守るための最有力条件なのである。ところが近年の問題は、自立への開始が早いにもかかわらず、不安定な雇用、少ない収入などに規定されて、親からの完全な自立を達成するのに長期間を要するばかりか、達成すること自体もおぼつかないような状況になっていることである。親の家から出て独立してくらしたいと願いながらも、収入が少なくて親の家を出られないの方が圧倒的に多い。それゆえ当然、結婚して自分の家庭をもつメドが立たない者が少なくな

い。

8.1.1 大都市の事例にみられる特徴

将来に対する期待水準は低く、ばくぜんとしたイメージしかもっていない。男性は、フリーターのままでは結婚できないと感じている。さらにいえば、たとえフリーターを脱したとしても「妻子を養う」というような段階に達するとは信じていない。専業主婦をもつことは“夢”でしかないと認識している。結婚したら共働きを期待している。いっぽう、女性の考え方はきわめて現実的である。フリーターとは結婚できないとみている。彼女たちの評価基準は、「安定した収入があつて、お金がないという苦勞をしないこと」である。職種は何でもかまわない。いずれにしても、一定の時間軸に添って生活設計があるという状態ではない。

このようなタイプは、欧米諸国で指摘されているように、もっとも社会的排除に陥りやすい典型といえよう。家庭環境のなかに、職業生活への準備をさせる条件がないため、当座の現金が入ればそれでよいという意識をもってしまう。その点では、正規雇用よりアルバイトの方が合理的と考えるのである。親子の貧困の連鎖を断ち切るためには、彼ら・彼女らの生活の全体像に対応した支援が必要で、単に仕事を与えれば解決できるというものではないだろう。職業教育や訓練とならんで生活設計や生活経営に関する教育や情報提供が必要だろう。

8.1.2 地方の事例にみられる特徴

地域経済の衰退が中・高卒層の状態を悪化させている。若年者の雇用があつた時代なら、当然仕事について働いていたであろう高卒者が、中途半端な仕事と家庭と地域の限定された生活空間で暮している。大都市ほどこづかいを稼ぐ機会がないため自由になるお金も少ない。このことも行動範囲を制約することになっている。このように、働く場が十分でない地方では、職歴を積み、また社会人としての経験を積み重ねるべき年齢の若者が、社会的文化的に貧弱な環境に閉じ込められた状態に置かれてしまう。職域の拡大をはじめ、その他の分野においても、地元にとどまった若者の参加を促し、発達を保障する必要がある。

8.2 高学歴フリーター層の家族・親族状況の特徴

関西、東北の中・高卒フリーター層と比較すると、首都圏高学歴フリーター層は、大学進学があたりまえの環境で育ってきたことに大きな違いがある。前者の親たちが、子どもの学業に対してほとんど無関心であつたのに対して、ここでの親たちは教育に対する関心が高く、子どもにかかる期待が高く、子どもに教育費をかけてきている。それゆえに、学校での失敗は、職業選択の過程にも負の影響を及ぼしがちである。いっぽう、「やりたいこと重視」の子育てが、子どもの全能感を高め、夢と現実のギャップを拡大し、なかなか仕事につく決心のできない若者を生み出している。

就職難に直面してフリーターにならざるを得なかった子どもに対して、親は氣遣いをみせ、

厳しい言動を抑制している。子どもは親に「もうしわけない」と感じ、「早く自立したい」とあせりを感じている。きょうだいともにフリーターの場合もある。これらの家庭での葛藤は軽視できないものがある。それが爆発するケースも予想できる。

就職難を乗り切るために、資格試験、専門学校、進路替えが試みられている。その過程で少なからず費用を捻出する必要があるが、この費用が出せるかどうかは、親の経済力にかかっている。しかし、その費用がはたして有効性のあるものかどうか不明のものも少なくない。かけた費用に対する効果という点からみて、無駄な金銭を使っているのではないかと疑わしい事例もある。

8.3 おわりに

社会階層の違いにかかわらず、フリーター期間が長くなるにしたがって、将来に対する悲観的意識が生まれる。自分自身の家庭をもつことも自明とはいえない。低い所得水準では親との同居生活が30代に及ぶ可能性がある。もし一人暮らしをすれば、最低生活に近い状態になるだろう。

現状では、安定した職業に就くまでのプロセスが、本人と親の個人的責任と努力に委ねられているため、親に経済力と見識があればその援助によって脱出できるだろうが、そうでない場合は、先の見えない迷路にはまり込んでしまっている。こうした状況を打開するためには、公共的な支援機関を設置し、学校、家庭と連携を取りながら、求職活動のための支援をしていく必要があるだろう。若年者雇用の創出はいうまでもない。また、年齢段階に応じた職業教育が、生活設計・生活経営教育と並行的に行われるべきことは、先述したとおりである。

引用文献

荻谷剛彦（1995）『大衆教育社会のゆくえ』中公新書

ジョーンズ・ウォーレス著（1996）『若者はなぜ大人になれないのか』新評論

Gill Jones（2002）*The Youth Divide*, Joseph Rowntree Foundation

宮本みち子（2004）『ポスト青年期と親子戦略』勁草書房

鈴木栄太郎（1944）『日本農村社会学原理』日本評論社